

II. 調査結果

1. 環境問題に関する意識について（問 1）

1-1 環境問題への取組に対する考えや意見（問 2-1）

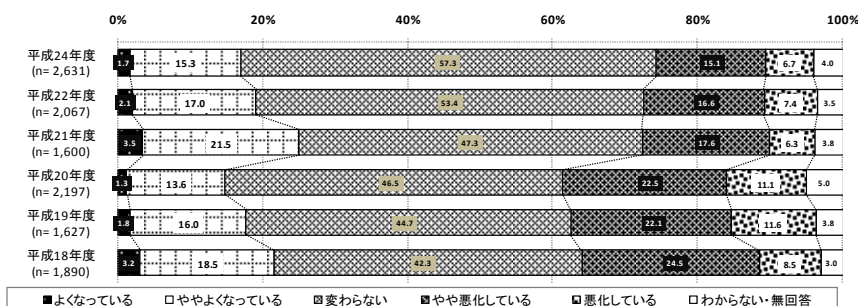
地域レベル、国レベル、地球レベルの全てで環境の状況がよくなっていると実感する割合の減少がみられた。悪化していると実感する割合は、地域レベルを除いて増加している。地球レベルでは悪化していると実感する割合が75%と依然として高い。

近年の環境の状況についての実感について尋ねた結果、「よくなっている」と実感している人の割合（「よくなっている」と「ややよくなっている」の合計）は、地域レベルで17%、国レベルで13%と平成22年度調査よりもともに約2ポイント減少した。

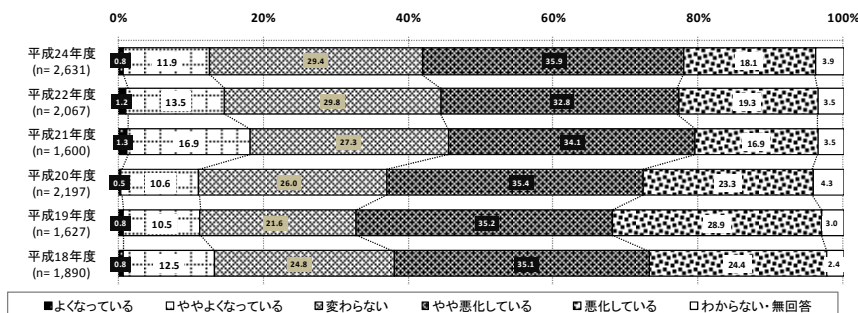
地球レベルでは「悪化している」と実感している人の割合（「悪化している」と「やや悪化している」の合計）が75%と高い割合を示しかつ平成22年度調査より増加しており、地球レベルでの環境の悪化を問題視していることが想定される。

図表 1-1 近年の環境の状況についての実感

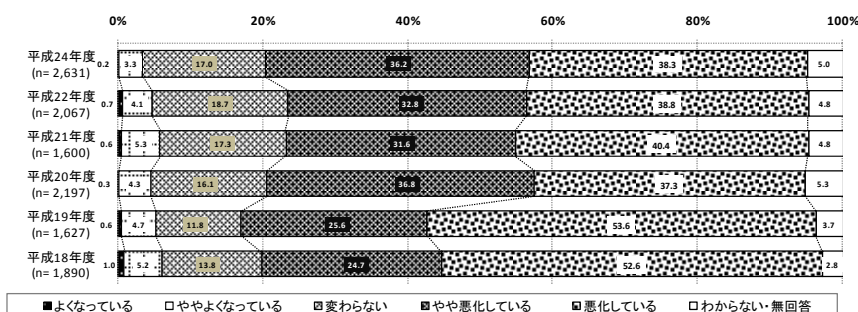
地域レベル



国レベル



地球レベル



地域レベルの環境の状況についての実感

地域レベルでは57%の人が変わらないと実感している。よくなっていると実感している人は17%、悪化していると実感している人は22%となっている。
属性別では、よくなっていると実感している人の割合が高いのは70代以上(31%)、悪くなっていると実感している人の割合が高いのは、北海道・東北地域の人となっている。

地域レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は17%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は22%となっている。

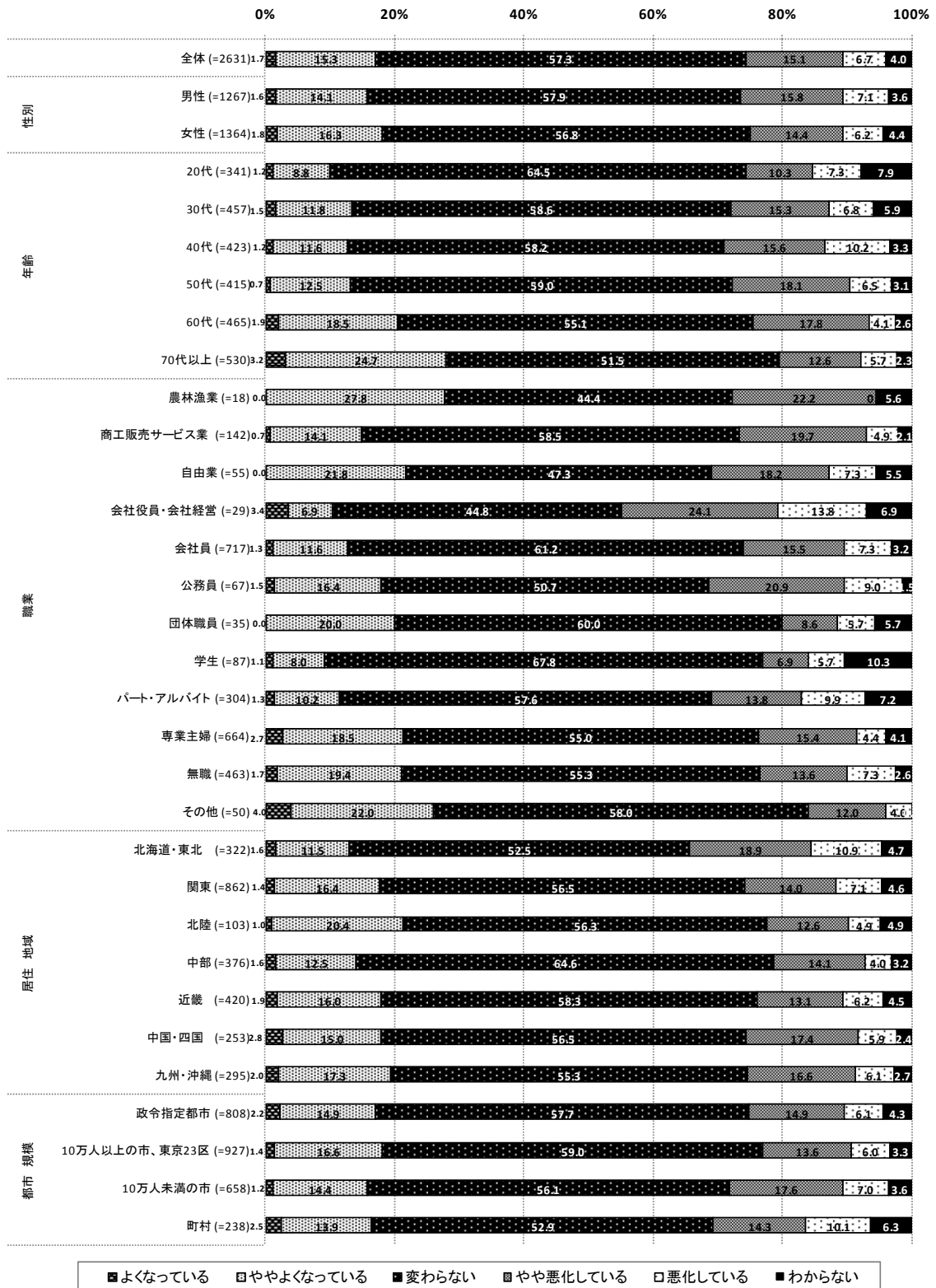
性別では、男性は女性よりも「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人が少なく、「悪化している」、「やや悪化している」と感じている人が多い。

年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、20代が10%と低く、おおそ年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70代以上で28%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、40代が26%と最も高く、20代、70代以上が18%と低くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、北陸で21%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、北海道・東北で30%となっている。

都市規模別では、政令指定都市、10万人以上の市、東京23区では「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感する人の割合が比較的高く、10万人未満の市、町村では「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合が比較的高くなっている。

図表 1-2 地域レベルの環境の状況についての実感（属性別）



国レベルの環境の状況についての実感

国レベルでは54%の人が悪化していると実感している。よくなっていると実感している人は13%、変わらないと実感している人は29%となっている。

属性別では、よくなっていると実感している人の割合が高いのは70代以上の人(18%)、悪くなっていると実感している人の割合が高いのは北海道・東北地域の人(59%)となっている。

国レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は13%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は54%となっている。

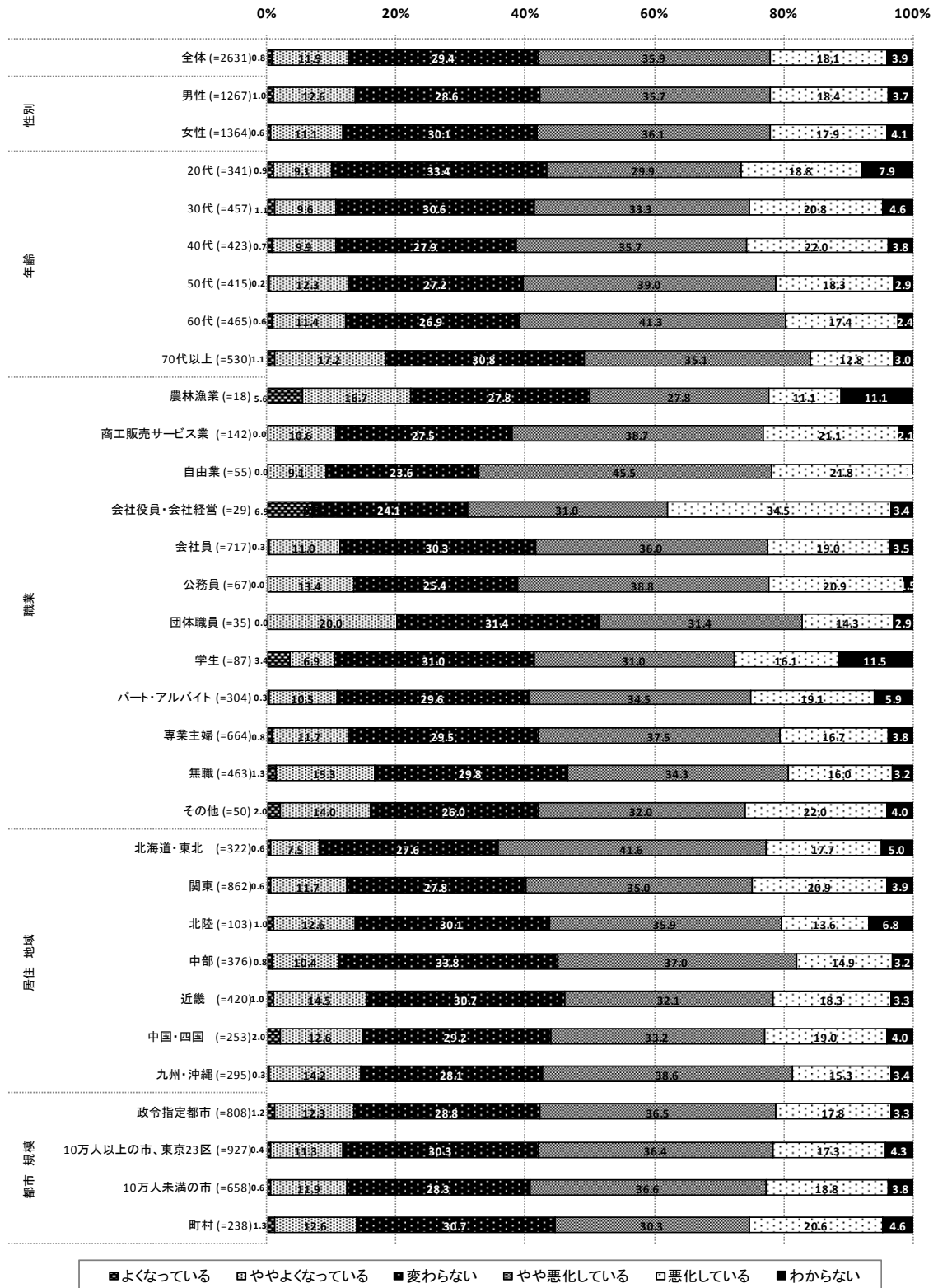
性別では、男性は「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が比較的大きい(14%)。「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合はほぼ変わらない(54%)。

年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、20代、30代が11%と低く、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70代以上で19%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、40代が58%と最も高く、70代以上が43%と最も低くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、近畿で16%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、北海道・東北で59%となっている。

都市規模別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感する人の割合に大きな差はないが、町村では「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合が比較的低く(51%)となっている。

図表 1-3 国レベルの環境の状況についての実感（属性別）



地球レベルの環境の状況についての実感

地球レベルでは75%の人が悪化していると実感している。よくなっていると実感している人は4%、変わらないと実感している人は17%となっている。

属性別では、よくなっていると実感している人の割合が比較的高いのは町村に居住している人(6%)、悪くなっていると実感している人の割合が高いのは60代の人(81%)となっている。

地球レベルの環境の状況について「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は4%、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は75%となっている。

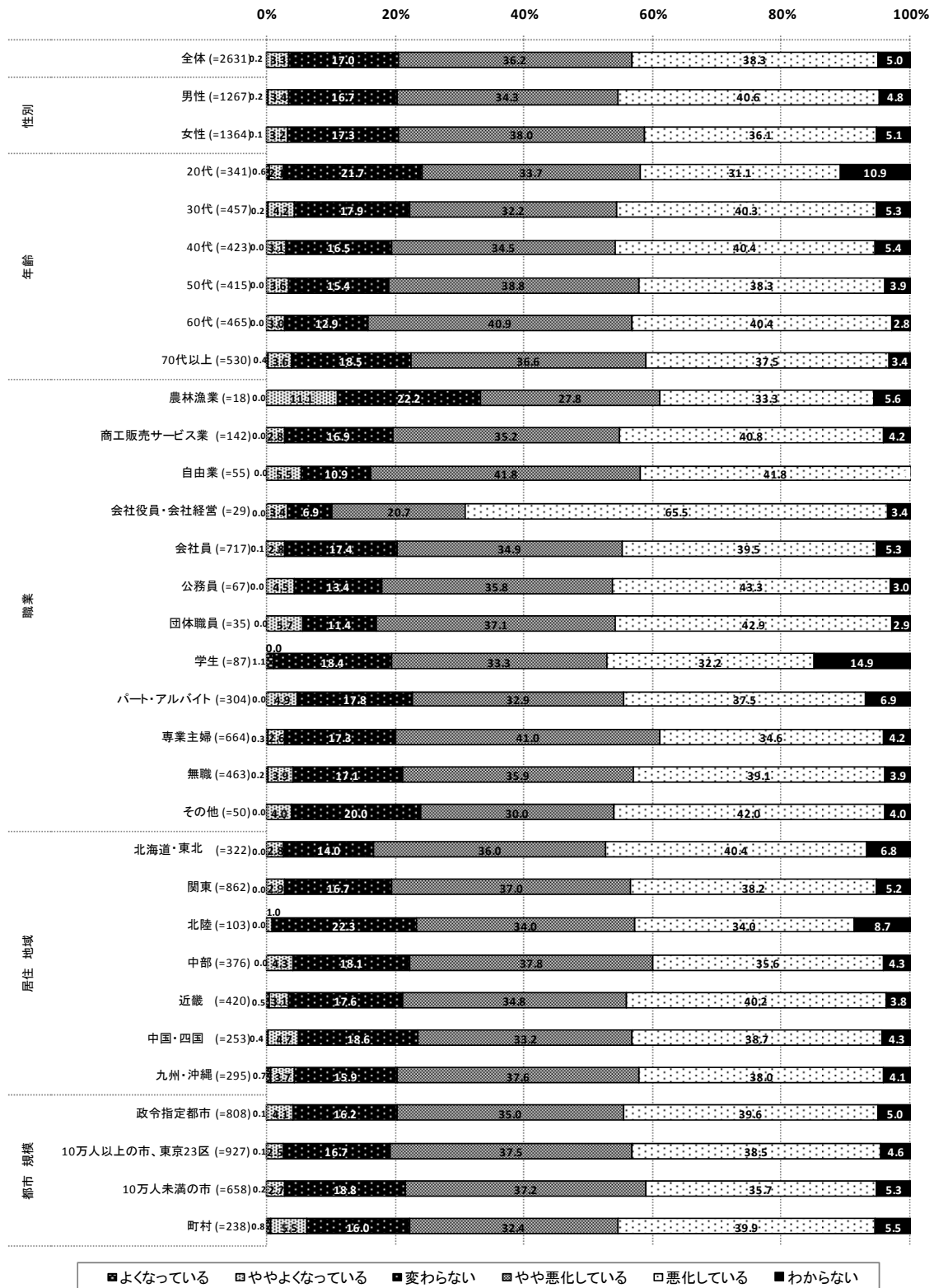
性別では、ほとんど差はみられない。

年代別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合は、ほとんど差はないが、20代が2.6%と比較的低くなっている。「悪化している」、「やや悪化している」と実感している人の割合は、20代が65%と最も低く、60代が81%と最も高くなっている。

地域別では、「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が高いのは、近畿で5%となっている。一方、「悪化している」、「やや悪化している」と実感している割合が高いのは、北海道・東北で76%となっている。

都市規模別では、町村では「よくなっている」、「ややよくなっている」と実感している人の割合が6%と比較的高くなっている。

図表 1-4 地球レベルの環境の状況についての実感（属性別）



近年の環境改善を実感する理由（問 1-2）

環境改善を実感する理由は、各レベル以下の回答が最も多かった。

- ・地域レベル：人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから（39%）
- ・国レベル：大気汚染対策が成果を上げているから（44%）
- ・地球レベル：地球温暖化対策が成果を上げているから（36%）

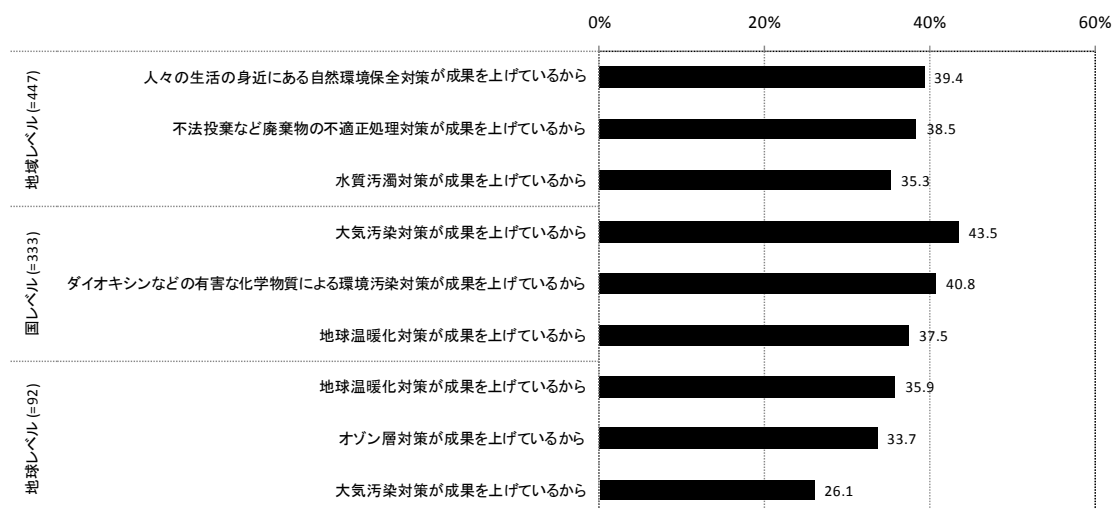
近年の環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、地域レベル、国レベル、地球レベルに分けて環境改善を実感する理由を尋ねた。

地域レベルでは、「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」および「不法投棄など廃棄物の不適正処理対策が成果を上げているから」が約 39%と割合が高く、次いで「水質汚濁対策が成果を上げているから」（35%）となっている。

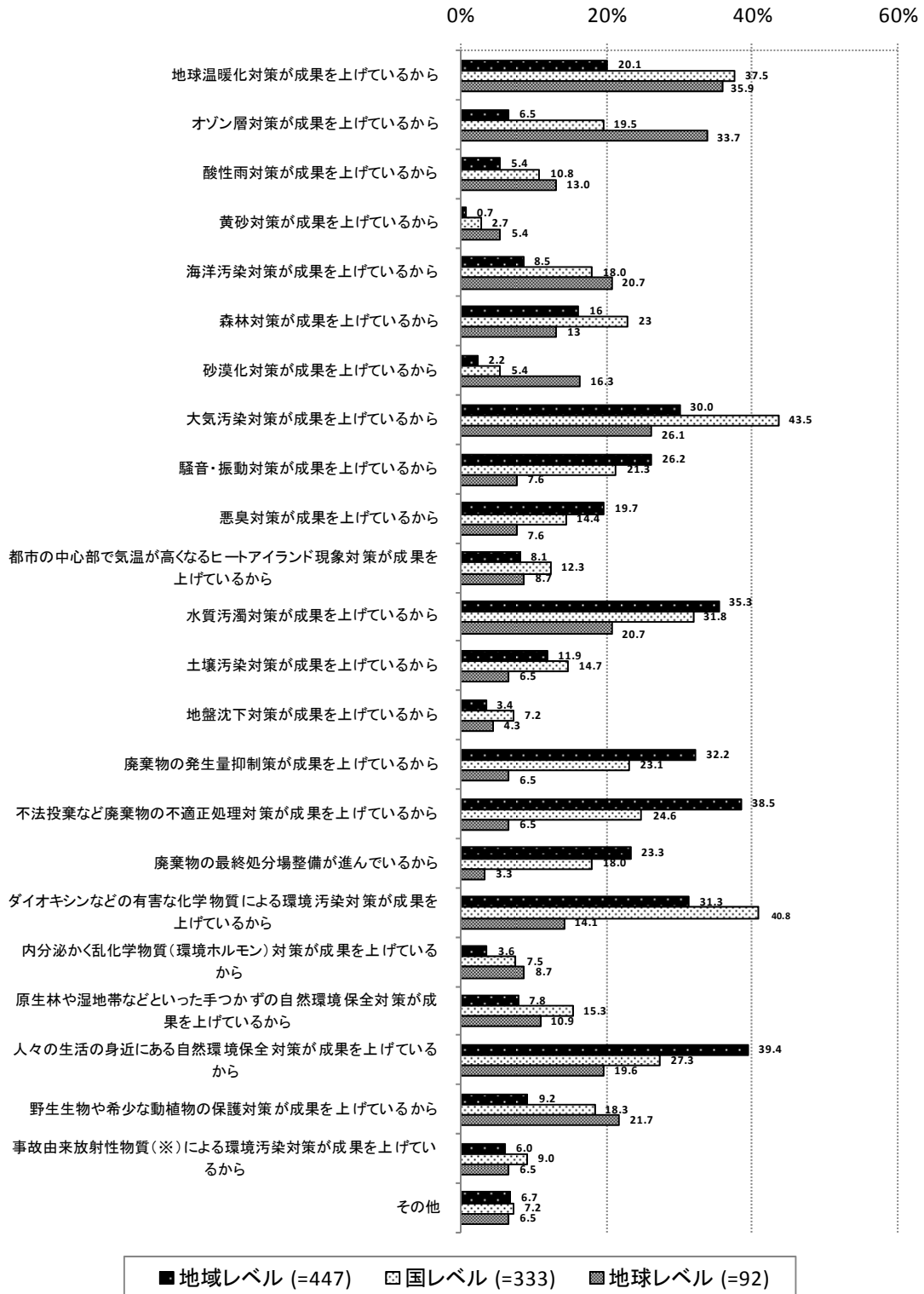
国レベルでは、「大気汚染対策が成果を上げているから」が 44%と最も割合が高く、次いで、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染対策が成果を上げているから」（41%）、「地球温暖化対策が成果を上げているから」（38%）、となっている。

地球レベルでは、「地球温暖化対策が成果を上げているから」が 36%と最も割合が高く、次いで「オゾン層対策が成果を上げているから」（34%）、「大気汚染対策が成果を上げているから」（26%）、となっている。

図表 1-5 近年の環境環境改善を実感する理由（各レベル別上位 3 項目）



図表 1-6 近年の環境環境改善を実感する理由



※事故由来放射性物質とは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により当該原子力発電所から放出された放射性物質のこと。

地域レベルの環境改善を実感する理由

地域レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」および「不法投棄など廃棄物の不適正処理対策が成果を上げているから」が約 39%と割合が高く、次いで「水質汚濁対策が成果を上げているから」(35%)となっている。

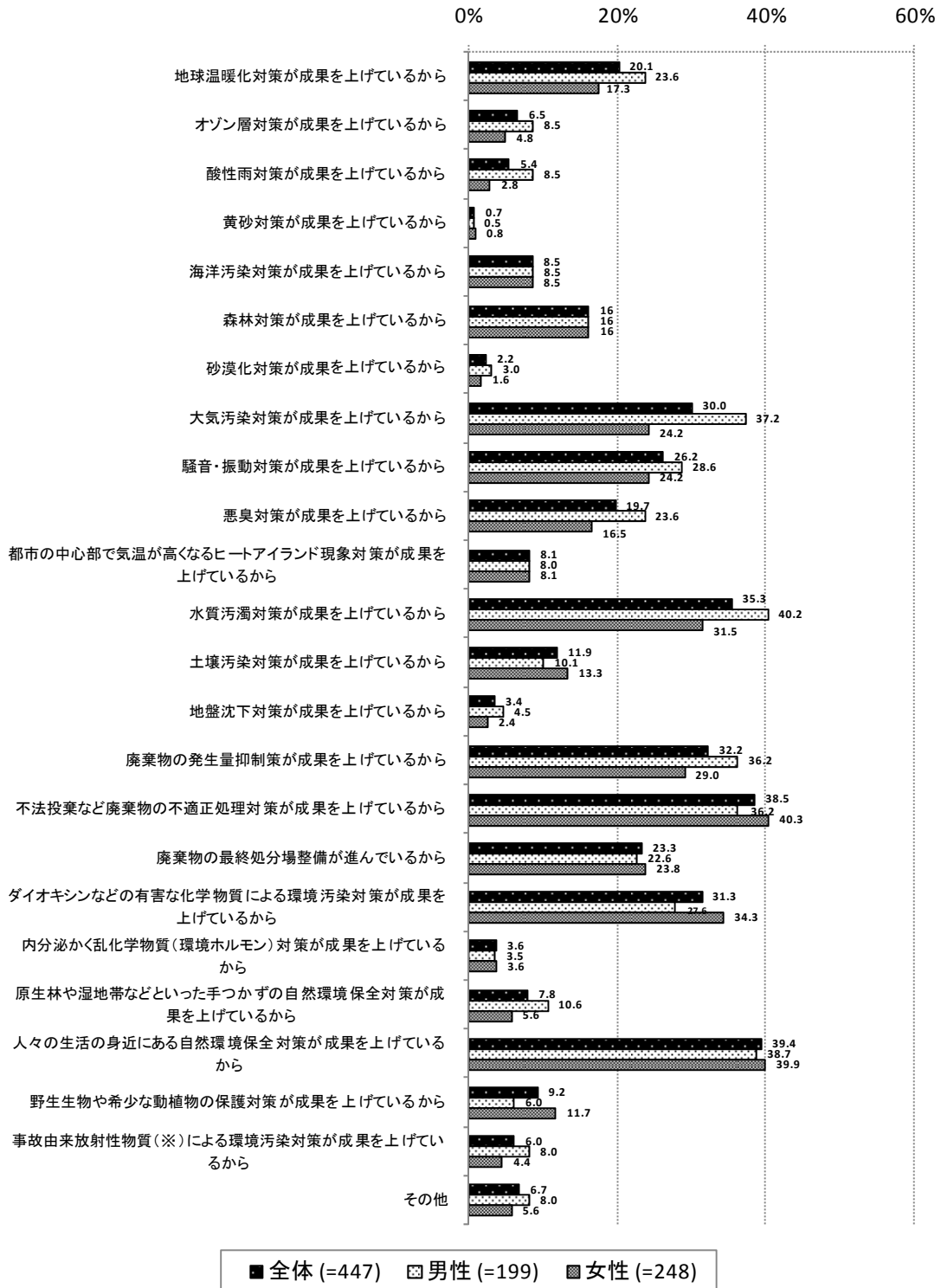
性別でみると、「大気汚染が進んでいるから」については、男性が女性よりも 10 ポイント以上高くなっている（男性 37%、女性 24%）。

年代別では、多くの項目で 60 代および 70 代以上の割合が高くなっている。「水質汚濁対策が成果を上げているから」では 20 代 (24%)、30 代 (13%) となる一方、60 代 (46%)、70 代以上 (44%) となり、20 ポイント以上の差がある。

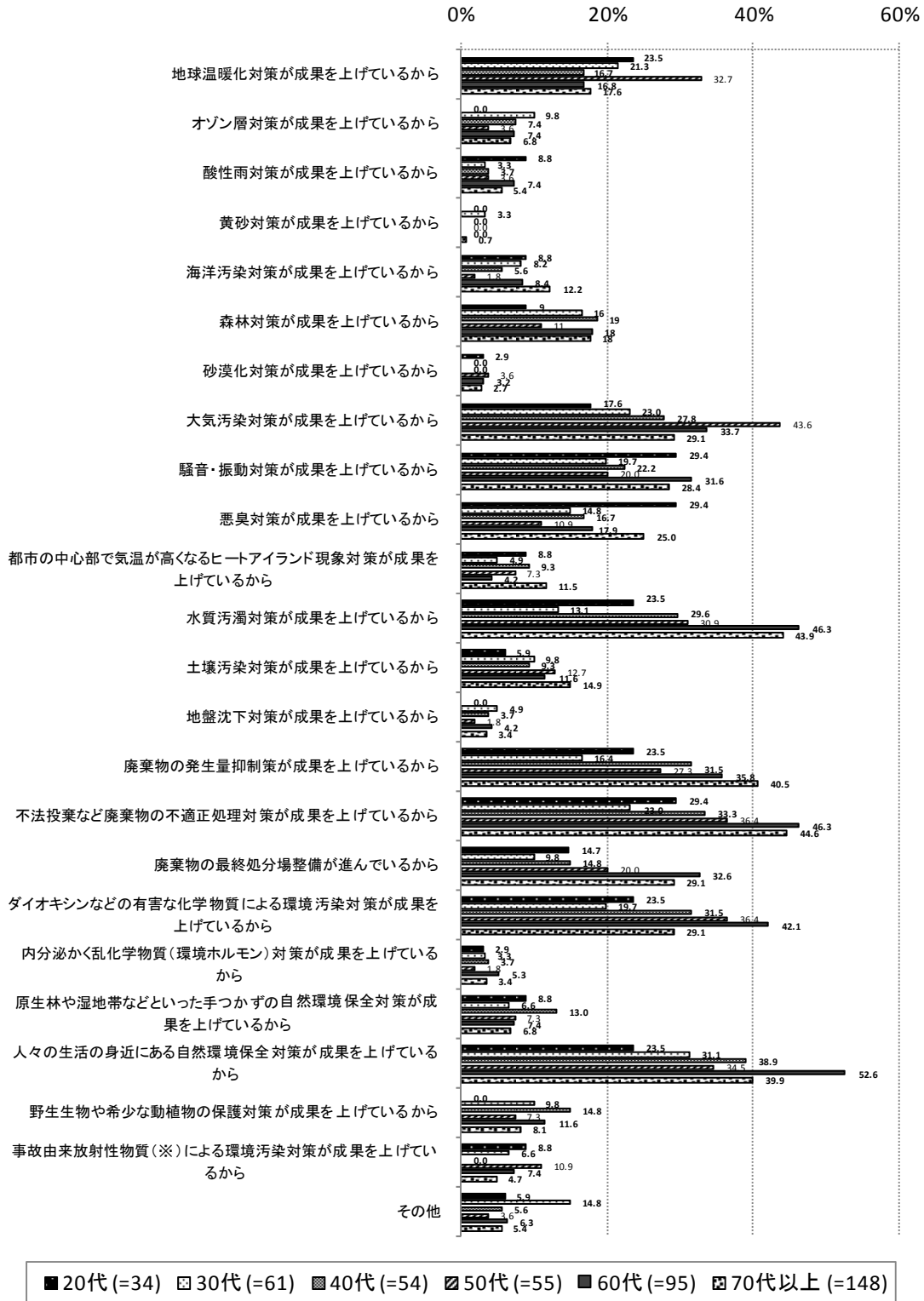
地域別では、「廃棄物の最終処分場整備が進んでいるから」については、九州・沖縄の 44% に対して関東では 12%、北海道・東北では 17%と、25 ポイント以上の差がついている。同様に「水質汚濁対策が成果を上げているから」については、関東では 27%に対して、中国・四国では 51%と、20 ポイント以上高くなっているなど、地域による差が大きいことがうかがわれる。

都市規模別では、町村で「不法投棄など廃棄物の不適正処理対策が成果を上げているから」が 54%と他の都市規模と比べて高くなっている。

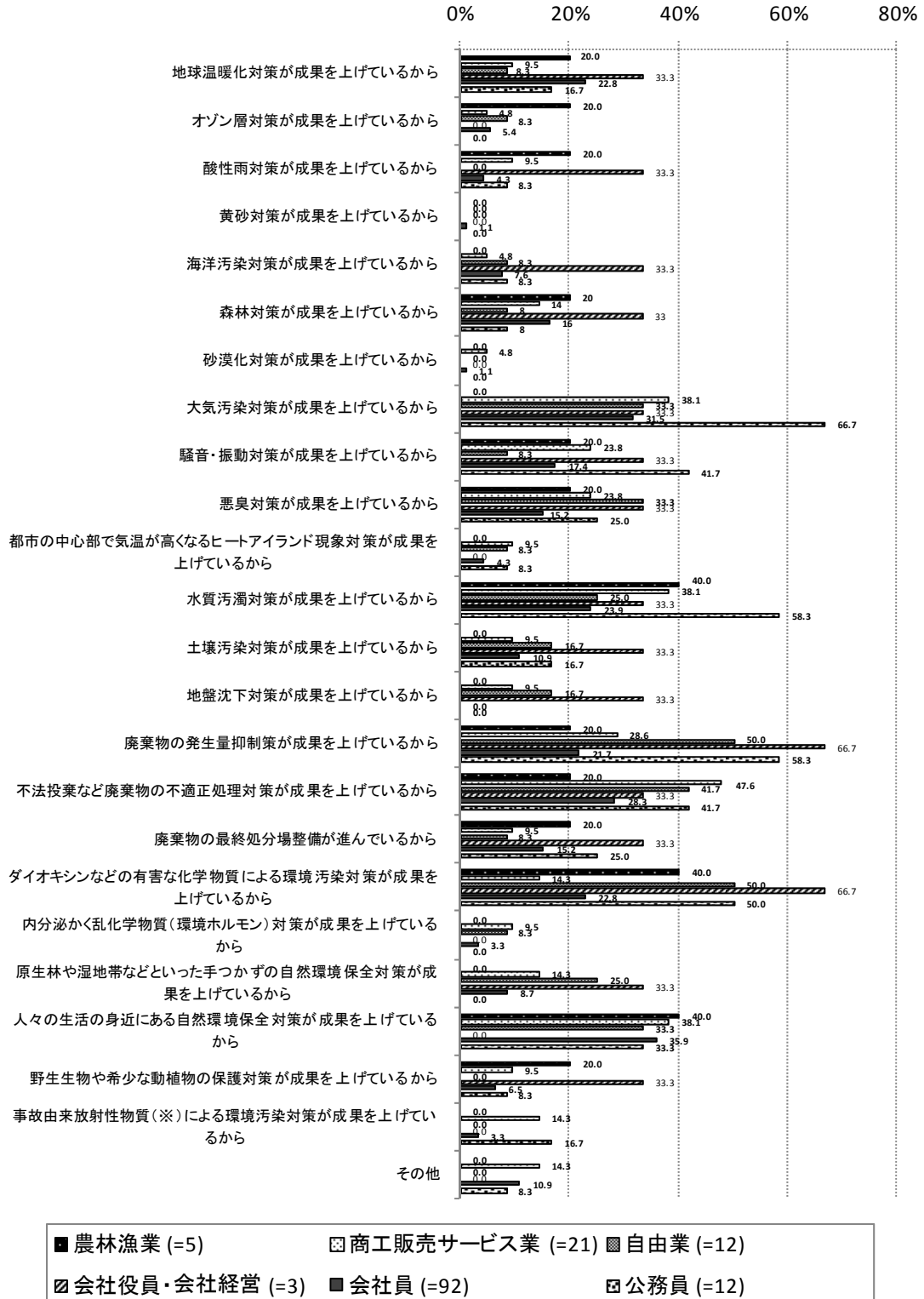
図表 1-7 地域レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



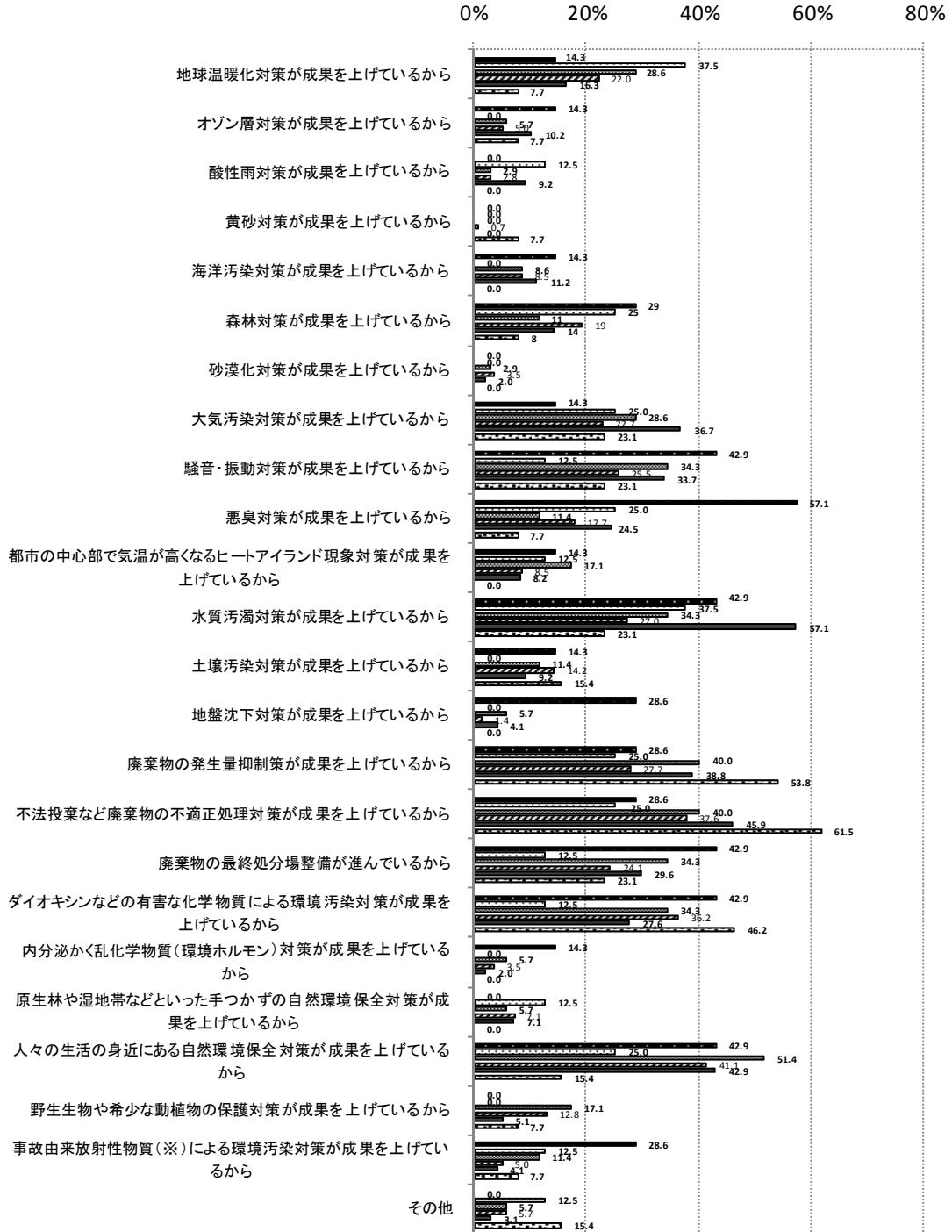
図表 1-8 地域レベルの環境改善を実感する理由（年代別）



図表 1-9 地域レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）

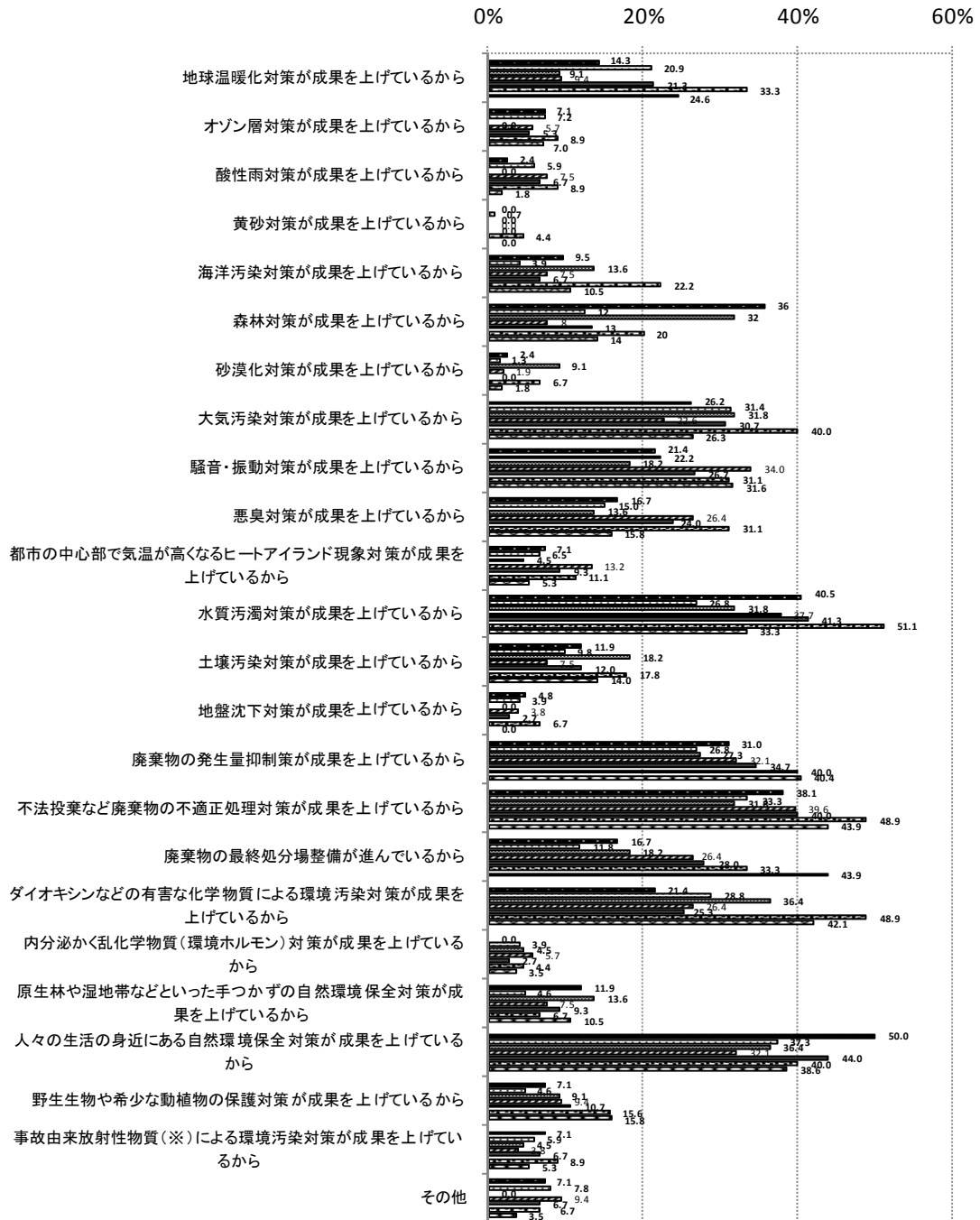


図表 1-10 地域レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）



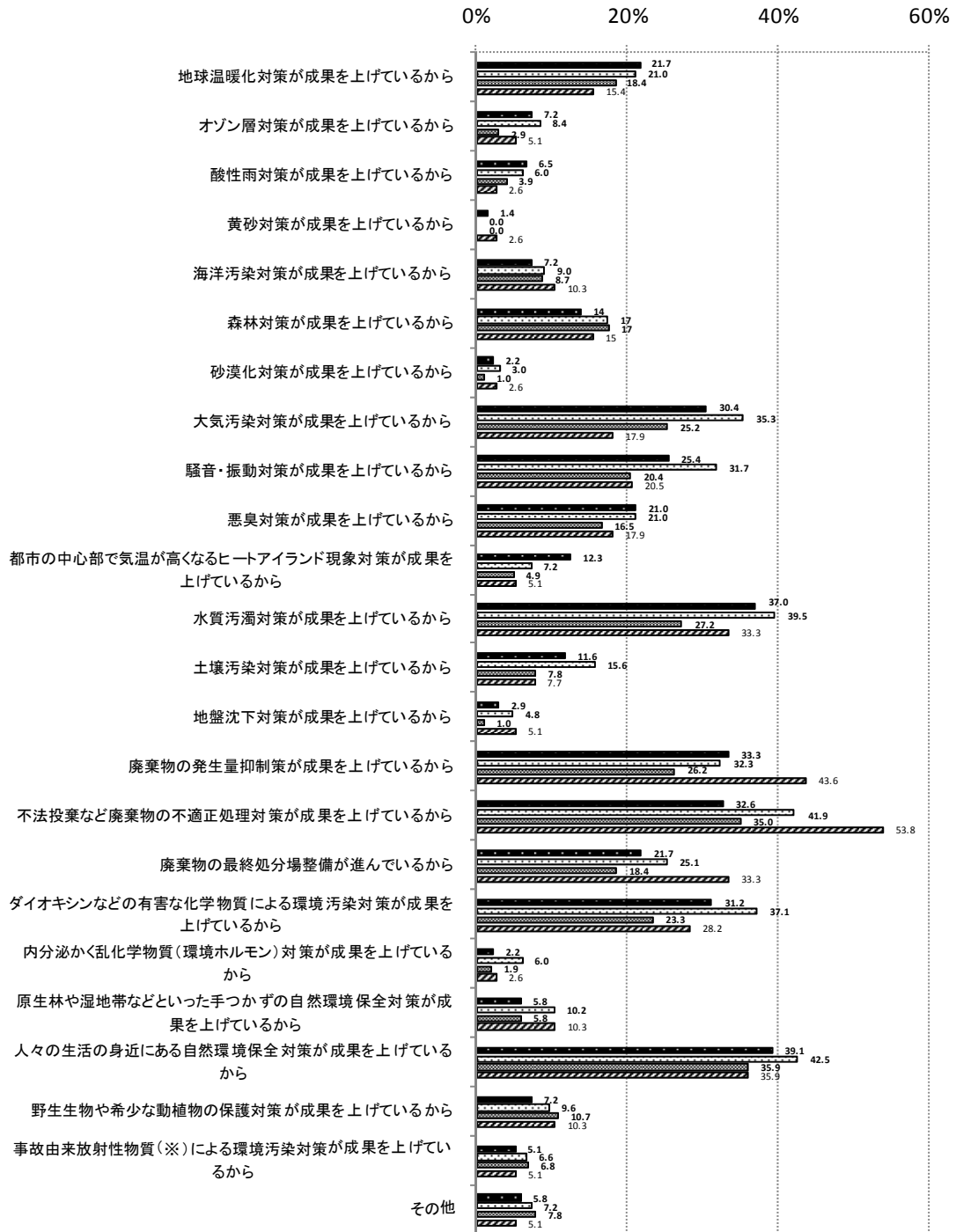
■ 団体職員 (=7) □ 学生 (=8) ■ パート・アルバイト (=35)
 ▨ 専業主婦 (=141) ■ 無職 (=98) □ その他 (=13)

図表 1-11 地域レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北 (=42) □ 関東 (=153) ▨ 北陸 (=22)
 ▩ 中部 (=53) ■ 近畿 (=75) □ 中国・四国 (=45)
 ▨ 九州・沖縄 (=57)

図表 1-12 地域レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



■ 政令指定都市 (=138) □ 10万人以上の市、東京23区 (=167)
 ▨ 10万人未満の市 (=103) ▩ 町村 (=39)

国レベルの環境改善を実感する理由

国レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、国レベルでは、「大気汚染対策が成果を上げているから」が44%と最も割合が高く、次いで、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染対策が成果を上げているから」(41%)、「地球温暖化対策が成果を上げているから」(38%)、となっている。

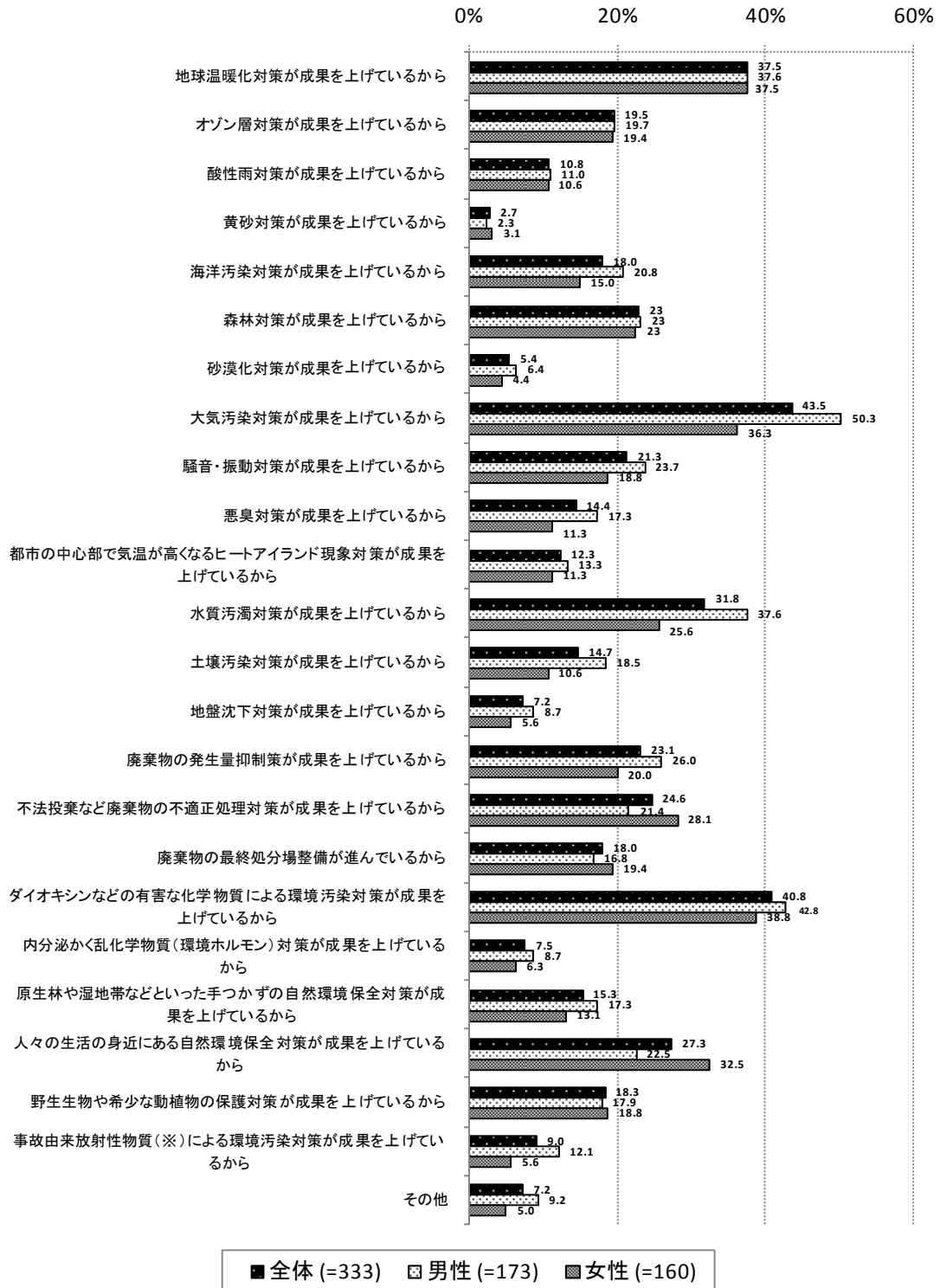
性別で見ると、「大気汚染が進んでいるから」については、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっている(男性50%、女性37%)。同様に「水質汚濁対策が成果を上げているから」も男性が女性よりも10ポイント以上高くなっている(男性38%、女性26%)。一方、「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」では女性が男性よりも10ポイント高くなっている(男性23%、女性33%)。

年代別では、多くの項目で20代、30代の割合が低くなっている。「水質汚濁対策が成果を上げているから」については、20代では15%なのに対して、70代以上では46%と高くなっている。「海洋汚染対策が成果を上げているから」は年代が上がるにつれ割合が上がり、20代が9%、30代10%に対し、60代が23%、70代以上では29%となっている。

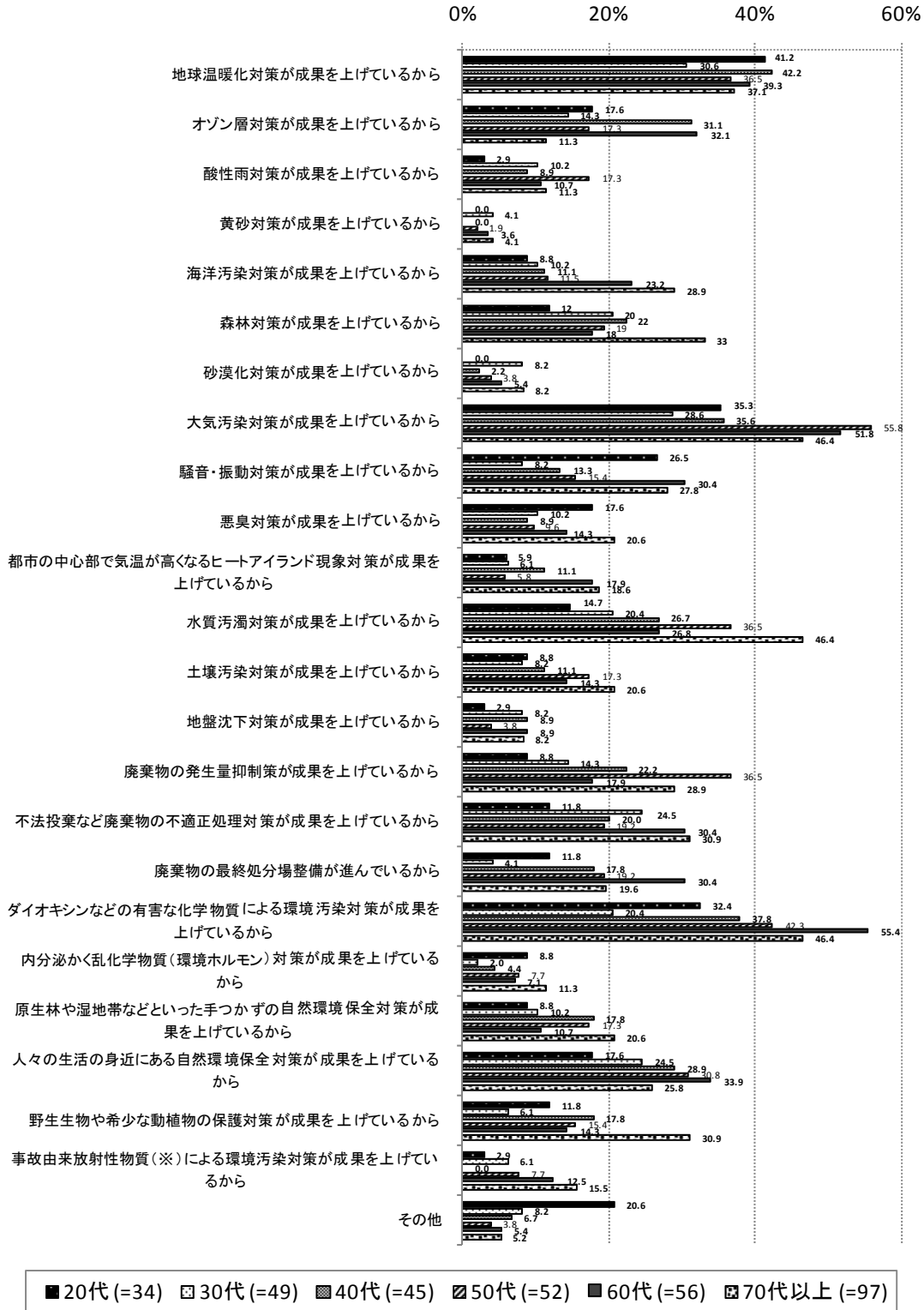
地域別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

都市規模別では、政令指定都市および10万人以上の市、東京23区では、多くの項目で全体よりも高い傾向がみられる。また、特に「廃棄物の発生量抑制策が成果を上げているから」では、政令指定都市は他の都市規模と比べて高くなっている。

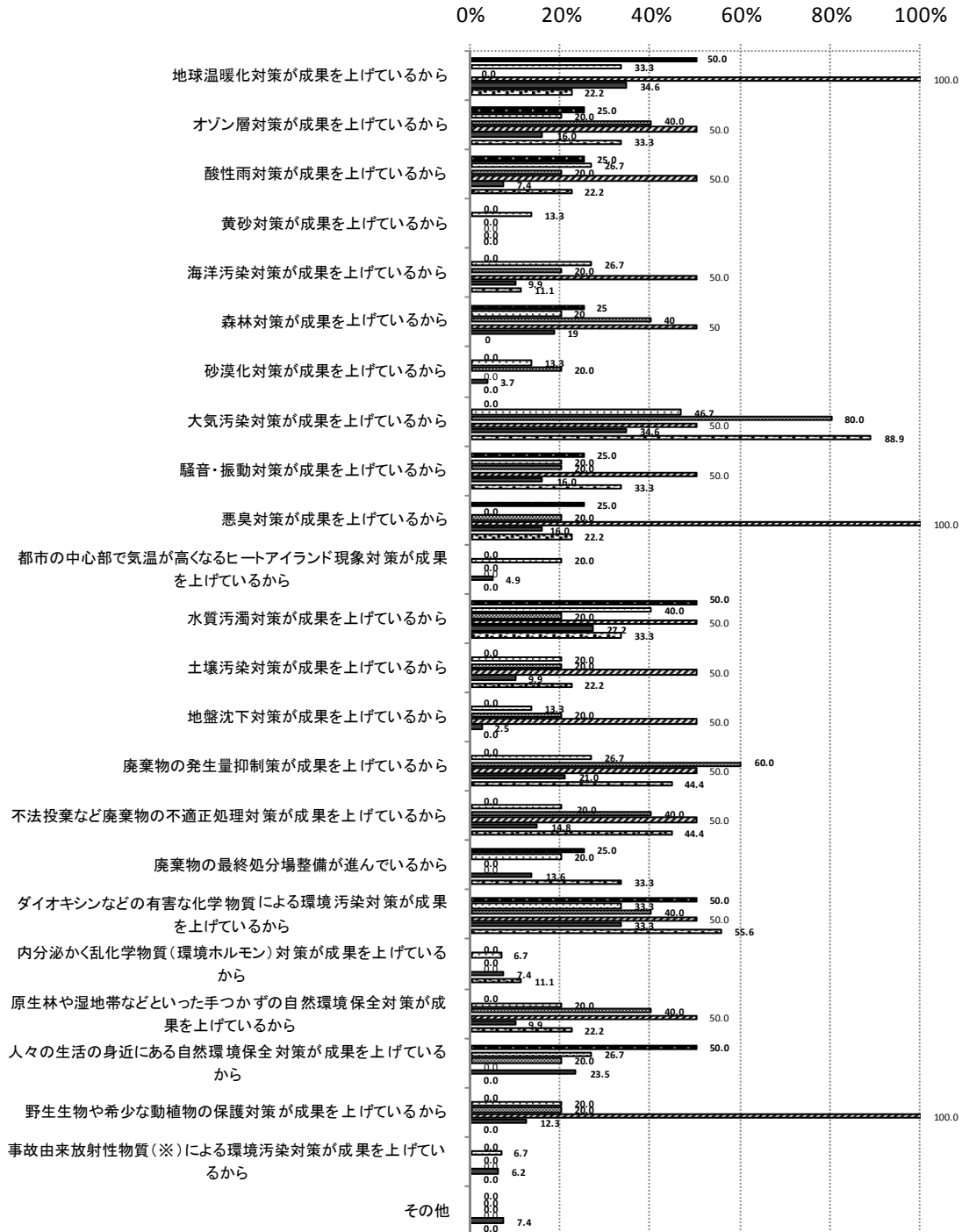
図表 1-13 国レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



図表 1-14 国レベルの環境改善を実感する理由（年代別）

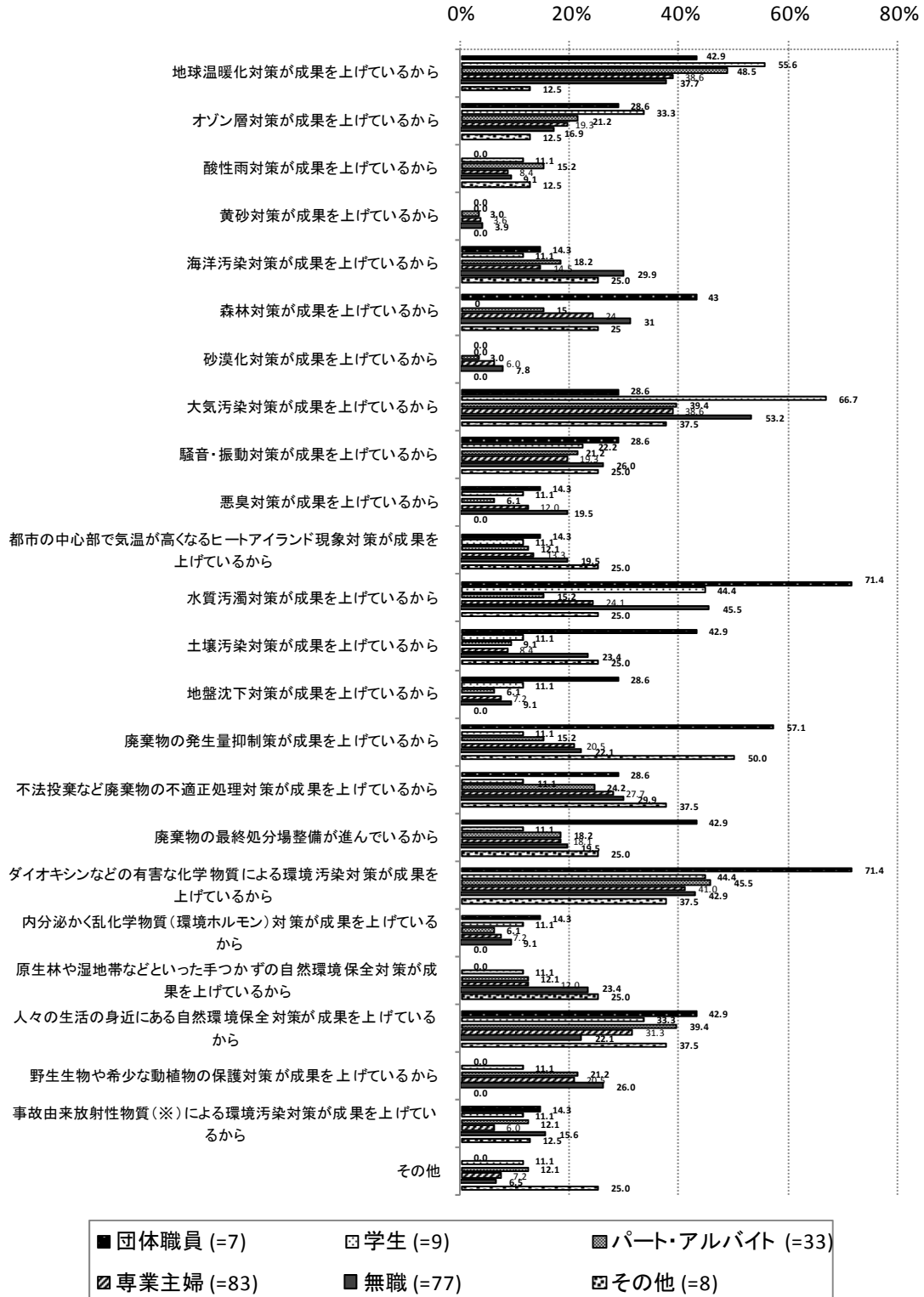


図表 1-15 国レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）

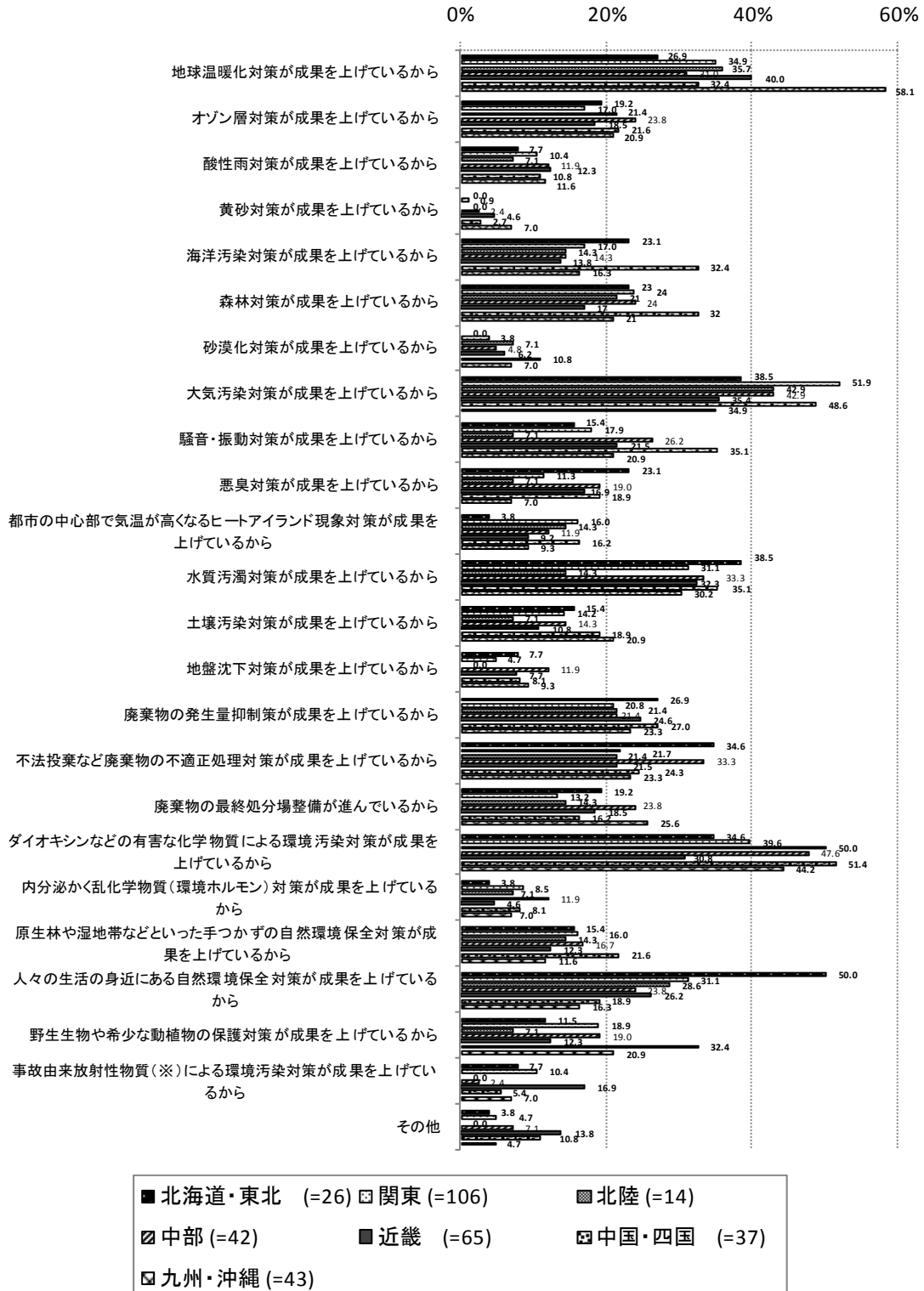


■ 農林漁業 (=4) □ 商工販売サービス業 (=15) ▨ 自由業 (=5)
 ▩ 会社役員・会社経営 (=2) ■ 会社員 (=81) □ 公務員 (=9)

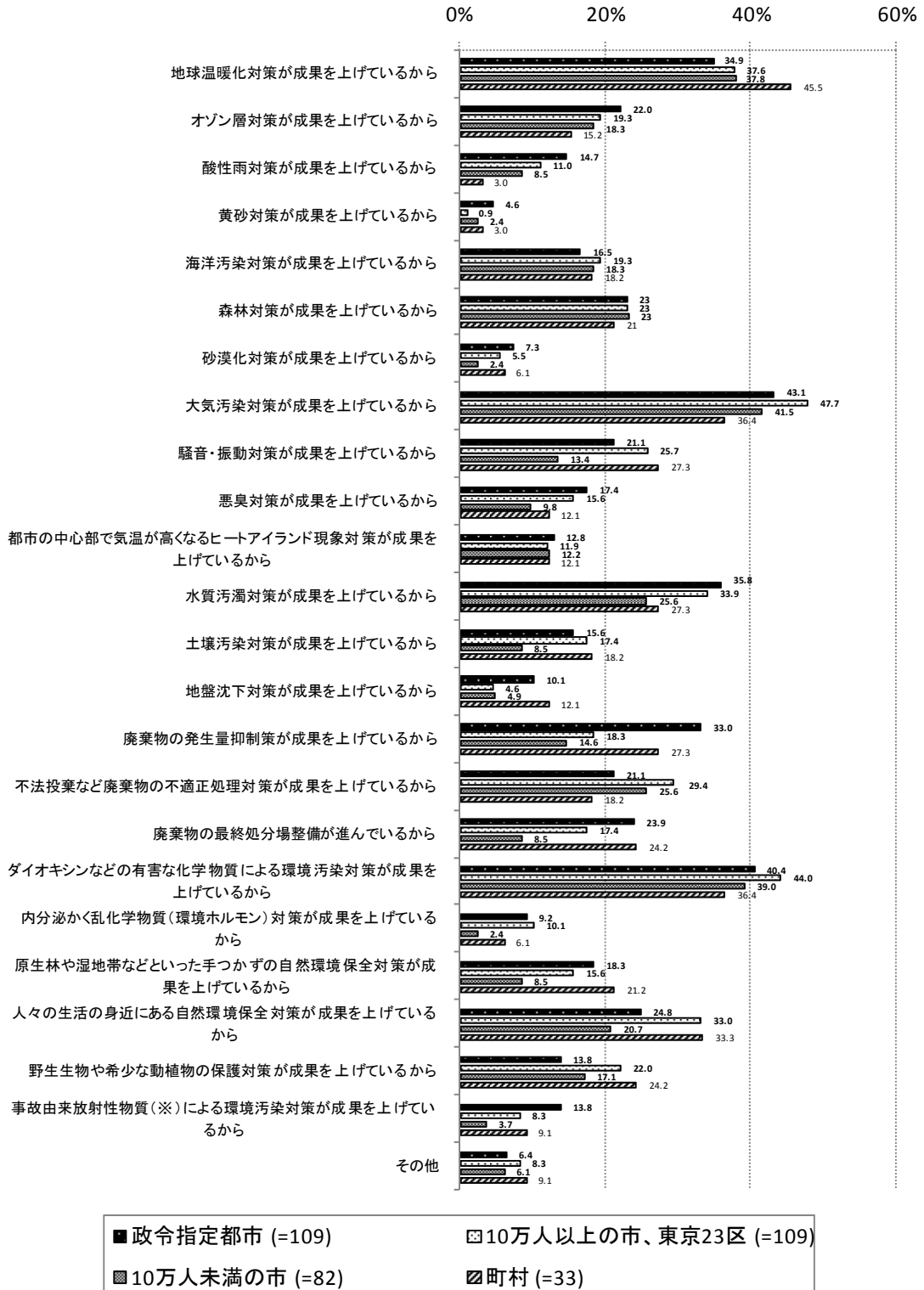
図表 1-16 国レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-17 国レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



図表 1-18 国レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



地球レベルの環境改善を実感する理由

地球レベルの環境の状況についての実感について「よくなっている」、「ややよくなっている」と回答した人に、環境改善を実感する理由を尋ねたところ、地球レベルでは、「地球温暖化対策が成果を上げているから」が36%と最も割合が高く、次いで「オゾン層対策が成果を上げているから」(34%)、「大気汚染対策が成果を上げているから」(26%)、となっている。

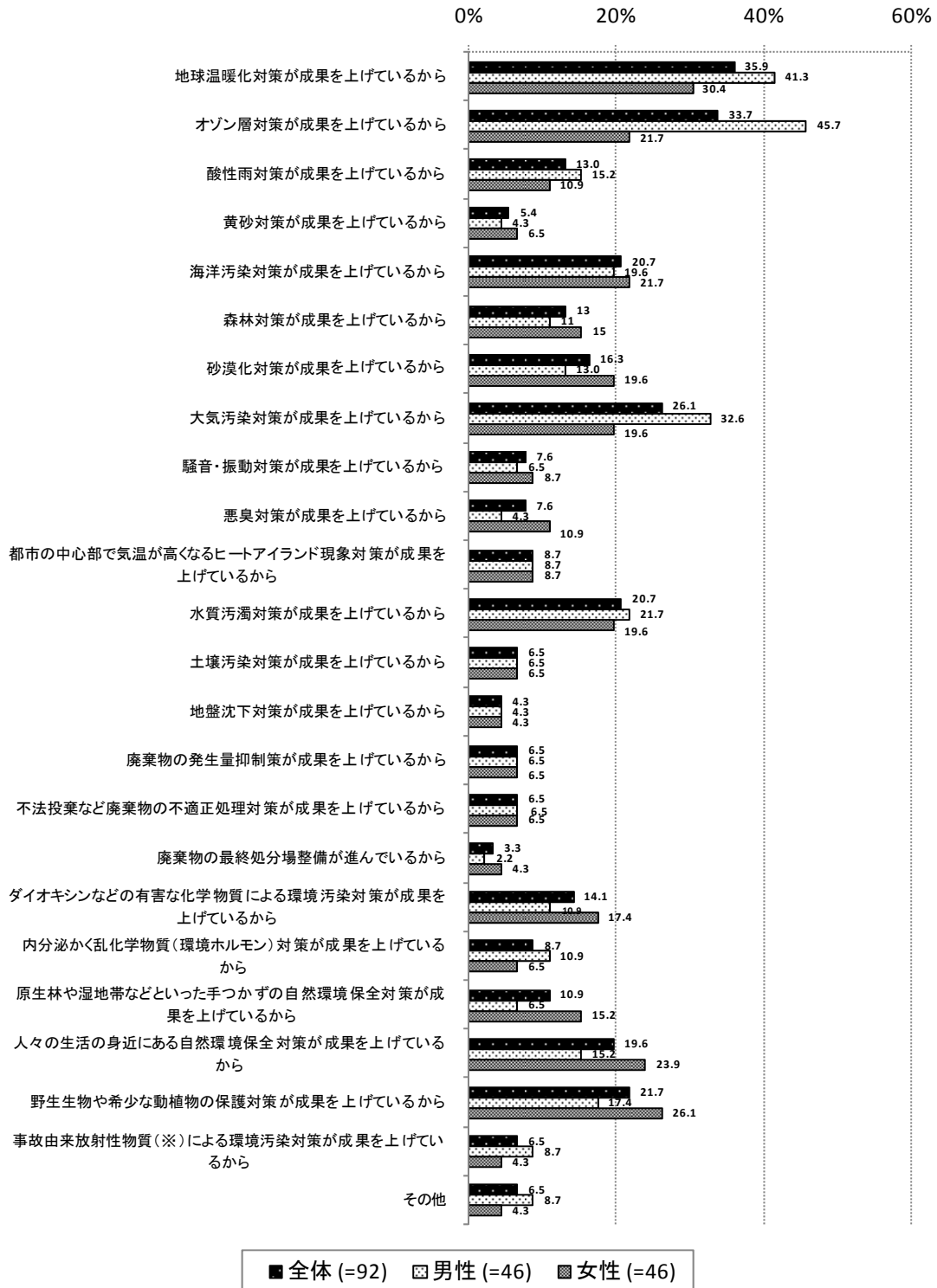
性別でみると、男性が女性よりも10ポイント以上高くなっている項目は、「地球温暖化対策が成果を上げているから」、「オゾン層対策が成果を上げているから」、「大気汚染対策が成果を上げているから」となっている。一方、女性が男性よりも10ポイント以上高くなっている項目はないが、「野生生物や希少な動植物の保護対策が成果を上げているから」、「人々の生活の身近にある自然環境保全対策が成果を上げているから」、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然環境保全対策が成果を上げているから」では女性が男性よりも9ポイント高くなっている。

年代別では、母数の少ない属性があり、比較をすることは難しい。

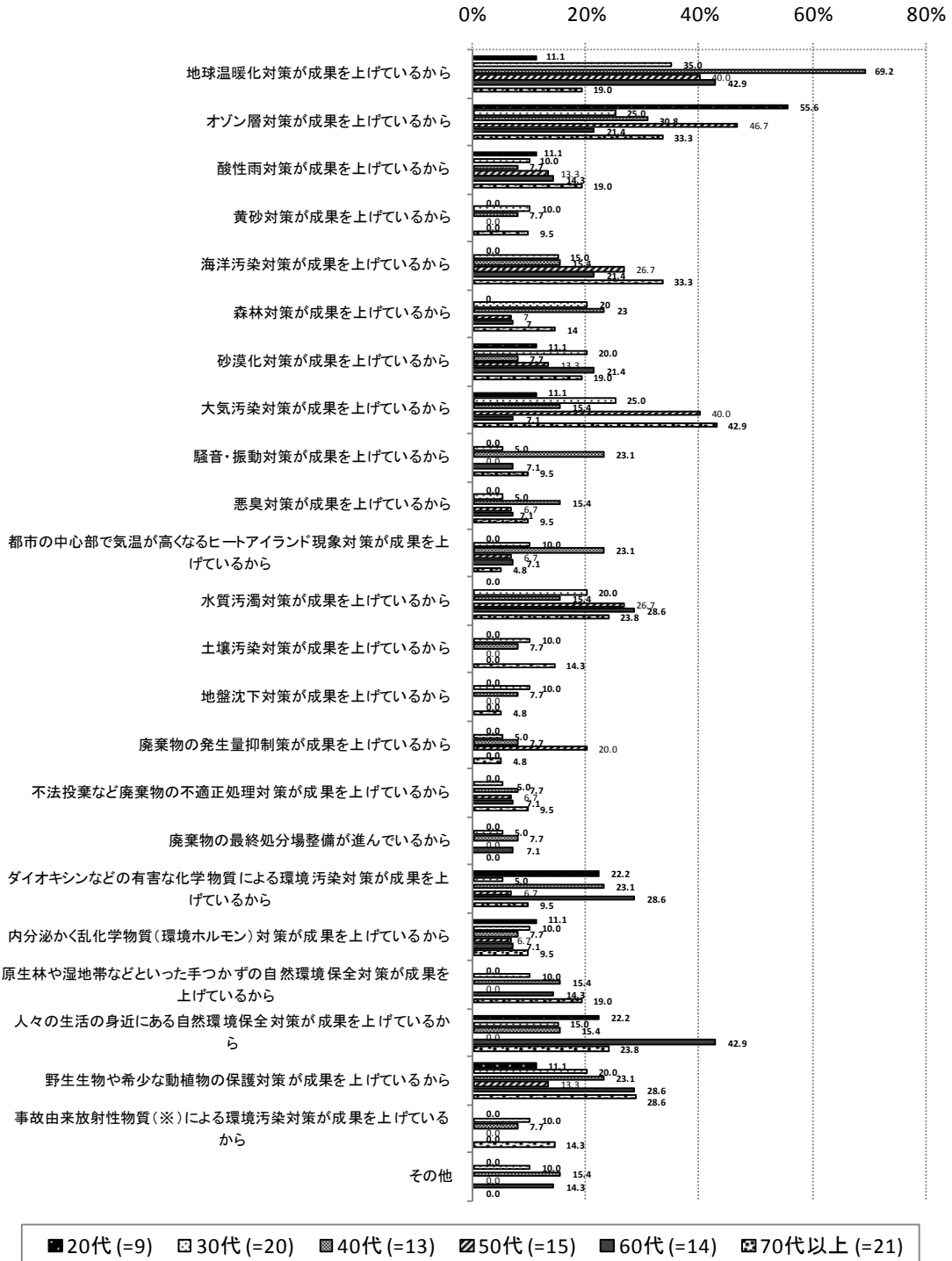
地域別では、母数の少ない属性があり且つ偏りも大きいため、比較をすることは難しい。

都市規模別では、政令指定都市では、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然環境保全対策が成果を上げているから」(21%)が他の都市規模と比べて高くなっている。

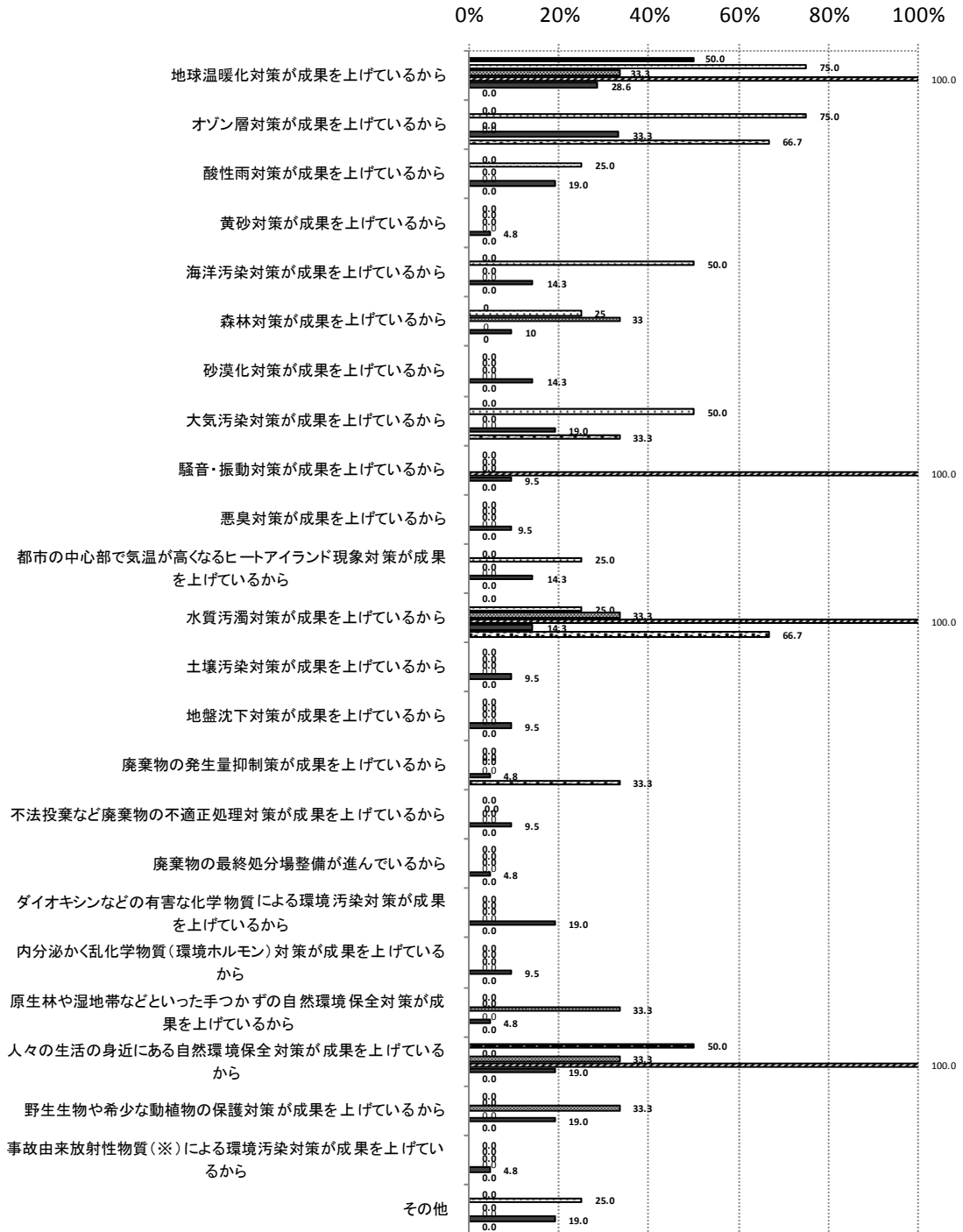
図表 1-19 地球レベルの環境改善を実感する理由（全体、性別）



図表 1-20 地球レベルの環境改善を実感する理由（年代別）

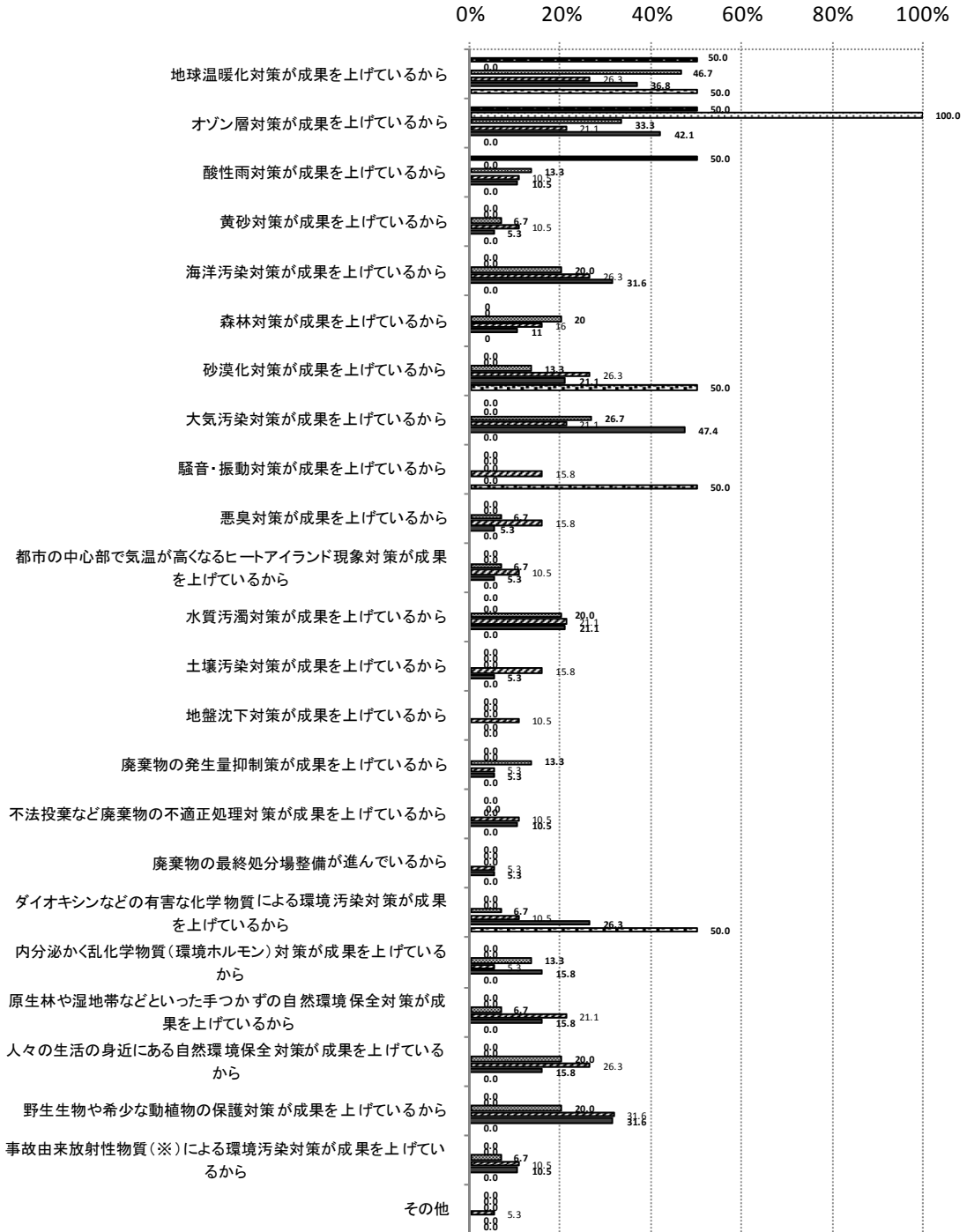


図表 1-21 地球レベルの環境改善を実感する理由（職業別 1/2）



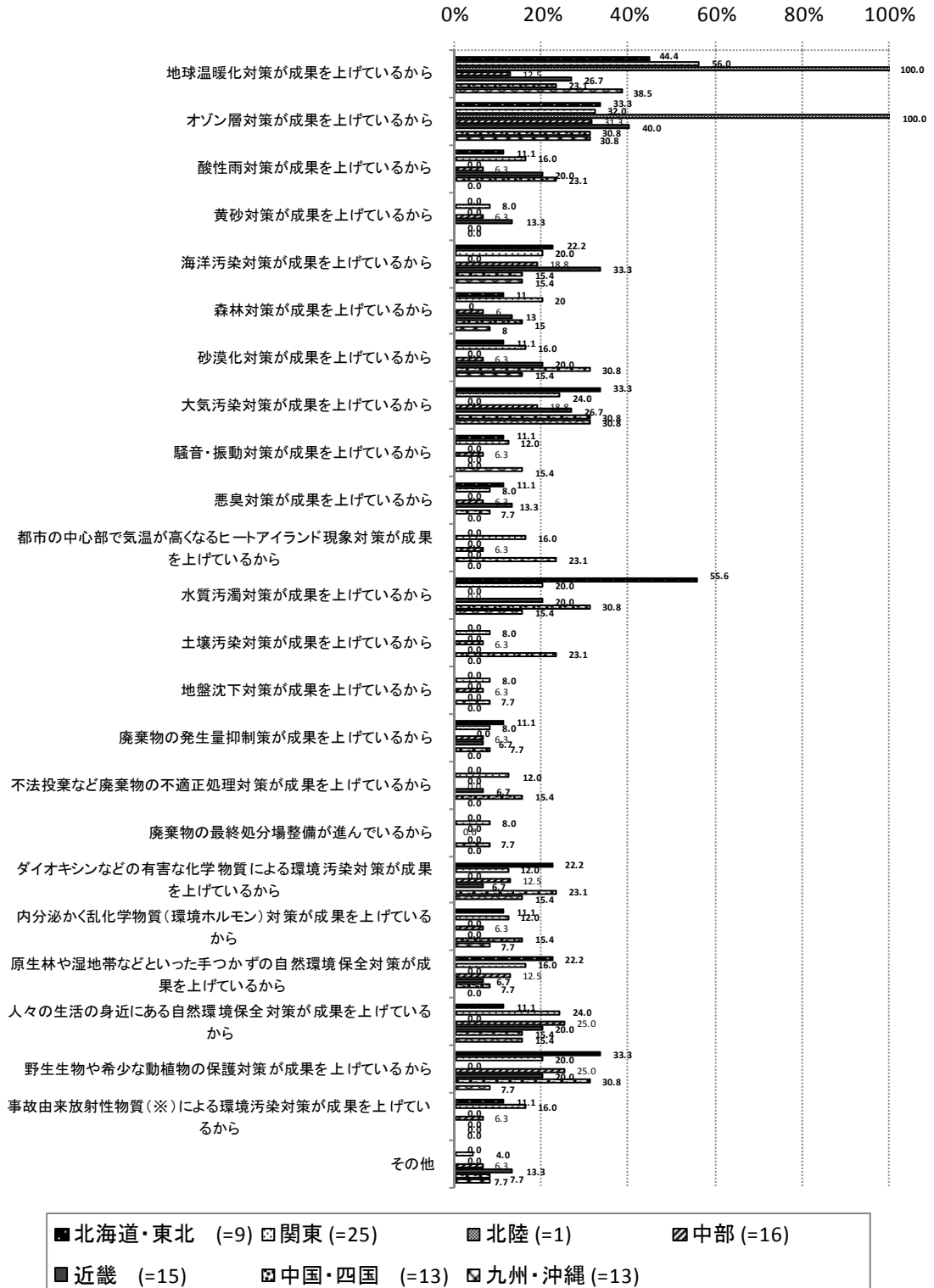
■ 農林漁業 (=2) □ 商工販売サービス業 (=4) ▨ 自由業 (=3)
 ▩ 会社役員・会社経営 (=1) ■ 会社員 (=21) □ 公務員 (=3)

図表 1-22 地球レベルの環境改善を実感する理由（職業別 2/2）

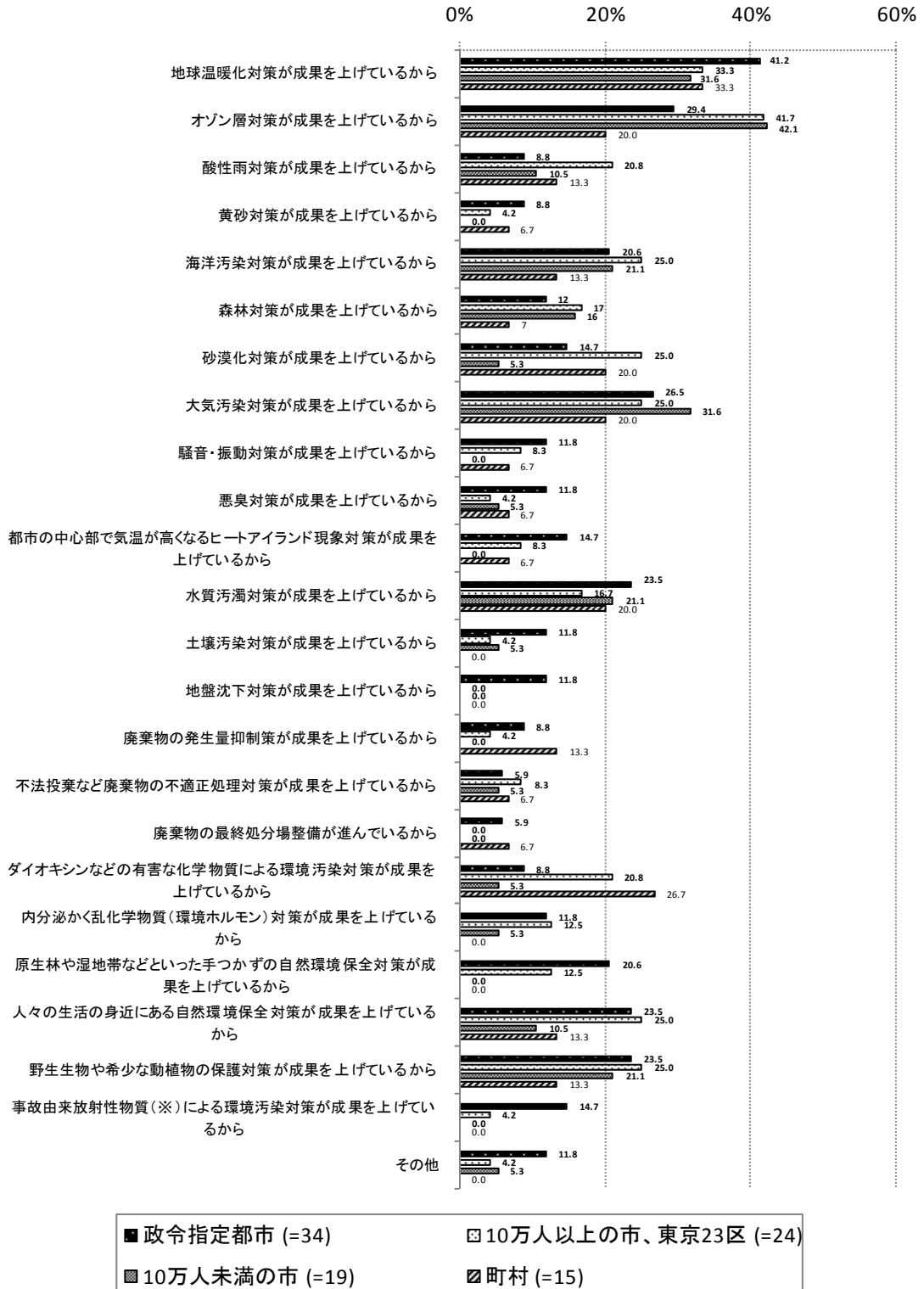


■ 団体職員 (=2) □ 学生 (=1) ▨ パート・アルバイト (=15)
 ▩ 専業主婦 (=19) ■ 無職 (=19) ▤ その他 (=2)

図表 1-23 地球レベルの環境改善を実感する理由（地域別）



図表 1-24 地球レベルの環境改善を実感する理由（都市規模別）



近年の環境悪化を実感する理由（問 1-3）

環境悪化を実感する理由は、各レベル以下の回答が最も多かった。

- ・地域レベル：地球温暖化が進んでいるから
- ・国レベル：事故由来放射性物質による環境汚染が発生したから
- ・地球レベル：地球温暖化が進んでいるから

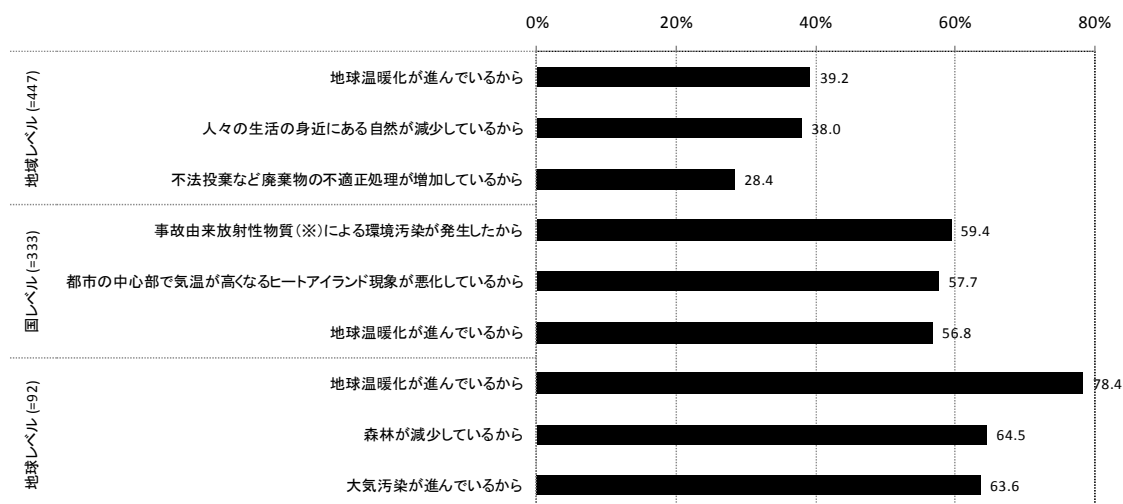
近年の環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、地域レベル、国レベル、地球レベル別に環境悪化を実感する理由を尋ねた。

地域レベルでは、「地球温暖化が進んでいるから」が39%と最も割合が高く、次いで「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」（38%）、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」（28%）となっている。

国レベルでは、「事故由来放射性物質による環境汚染が発生したから」が59%と最も割合が高く、次いで、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド減少が悪化しているから」（58%）、「地球温暖化が進んでいるから」（57%）となっている。

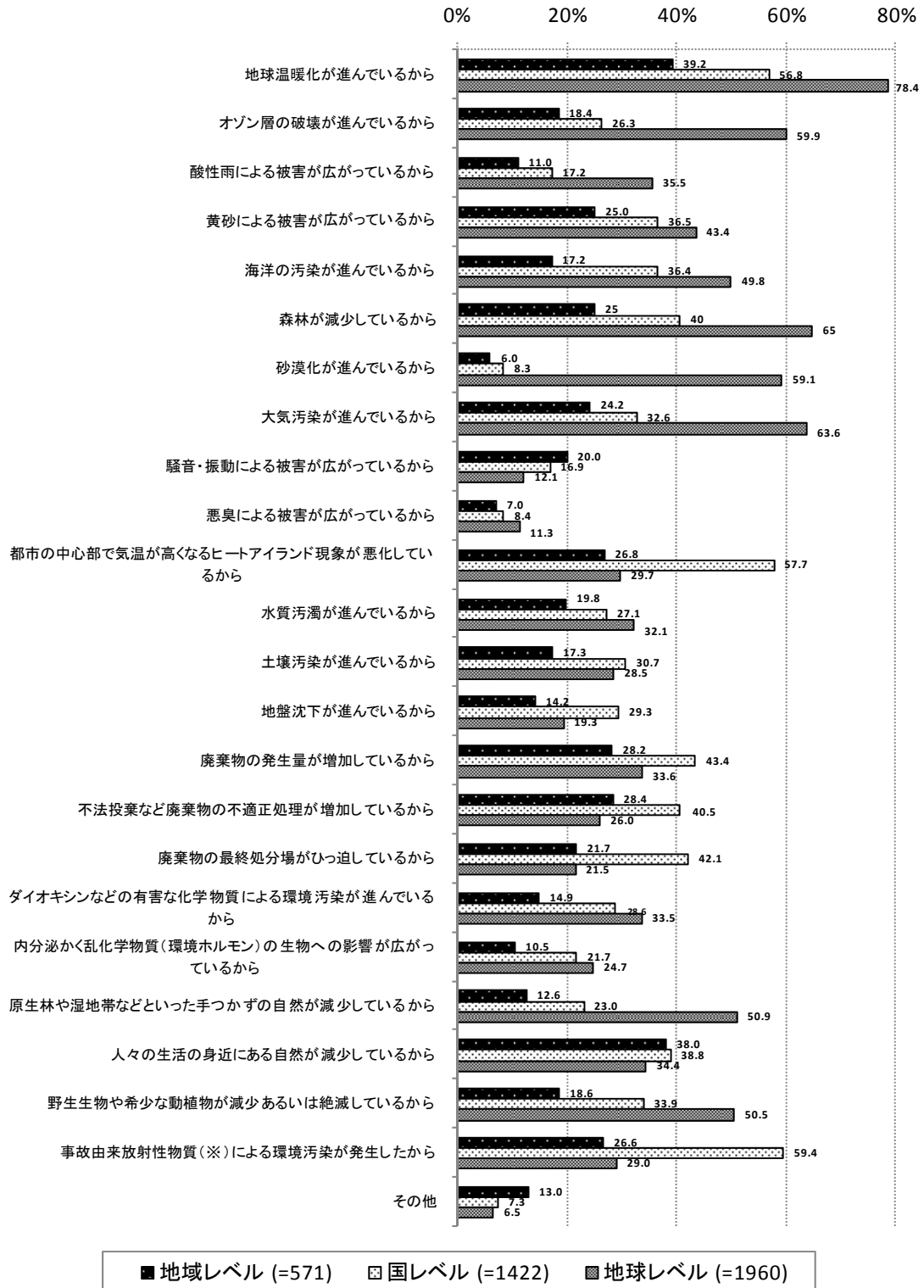
地球レベルでは、「地球温暖化が進んでいるから」が78%と最も割合が高く、次いで、「森林が減少しているから」（65%）、「大気汚染が進んでいるから」（64%）となっている。

図表 1-25 近年の環境悪化を実感する理由（各レベル別上位3項目）



※事故由来放射性物質とは、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により当該原子力発電所から放出された放射性物質のこと。

図表 1-26 近年の環境悪化を実感する理由



地域レベルの環境悪化を実感する理由

地域レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が45%と最も割合が高く、次いで「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」(43%)、「地球温暖化が進んでいるから」(38%)となっている。

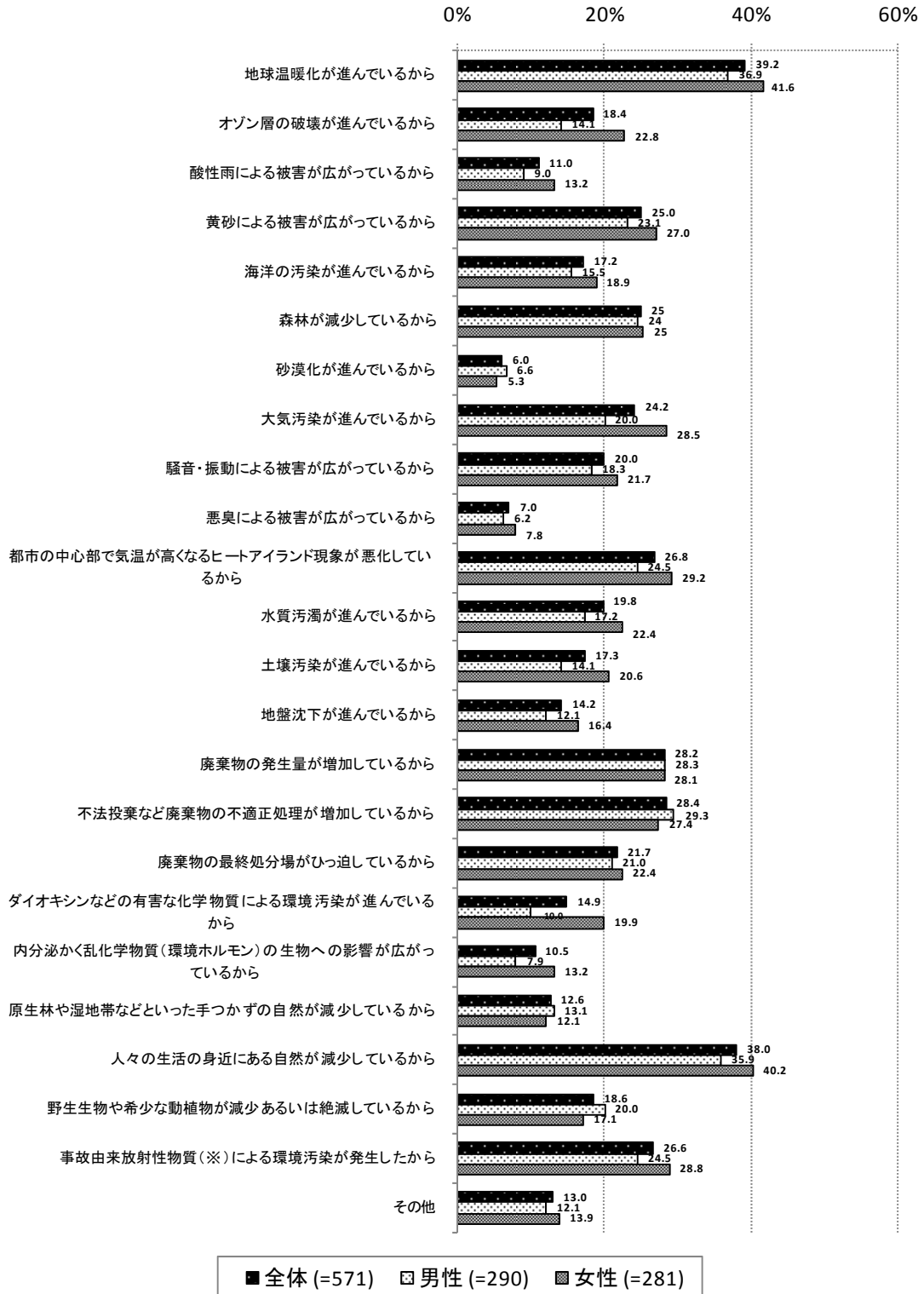
性別で見ると、多くの項目で女性が男性よりも高くなっており、特に「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染が進んでいるから」では女性が男性よりも10ポイント高くなっている(男性10%、女性20%)。

年代別では、多くの項目で70代以上の割合が全体よりも高くなっている一方、20代では多くの項目で全体よりも低くなっている。20代と70代以上では大きな差がある項目が多く、「廃棄物の最終処分場がひっ迫しているから」は20代の8%に対し70代以上は37%と29ポイントの差がある。

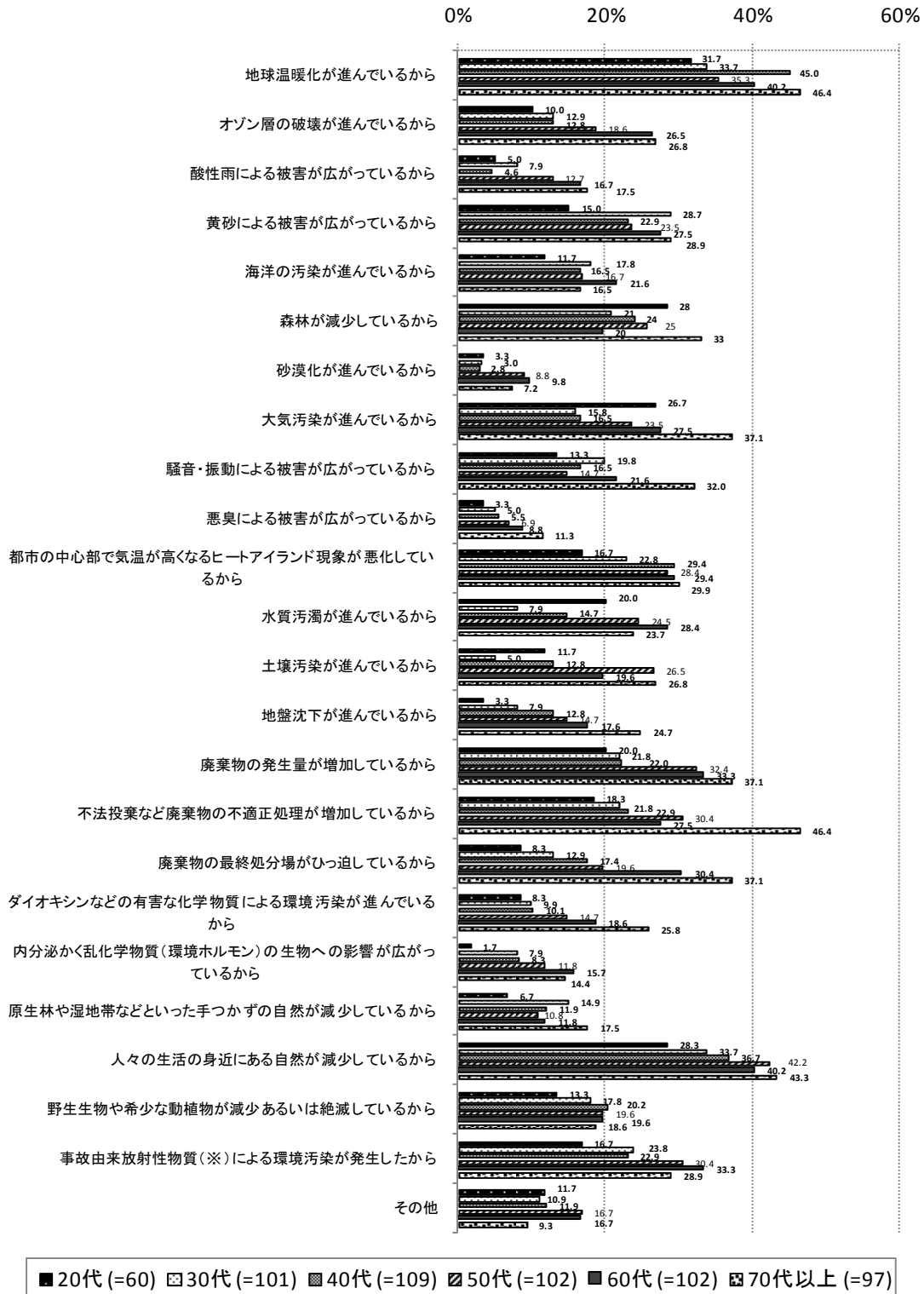
地域別では、全体よりも15ポイント以上高くなっているものとして、「事故由来放射性物質による環境汚染が発生したから」(北海道・東北、49%)、「黄砂による被害が広がっているから」(九州・沖縄、48%)があげられる。「黄砂による被害が広がっているから」は関東では10%であり、28ポイントの差がある。

都市規模別では、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が町村では62%と高い一方、他の規模では約35%前後と、約30ポイントの差がある。また、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」が政令指定都市では39%となる一方、町村では19%と20ポイントの差がある。

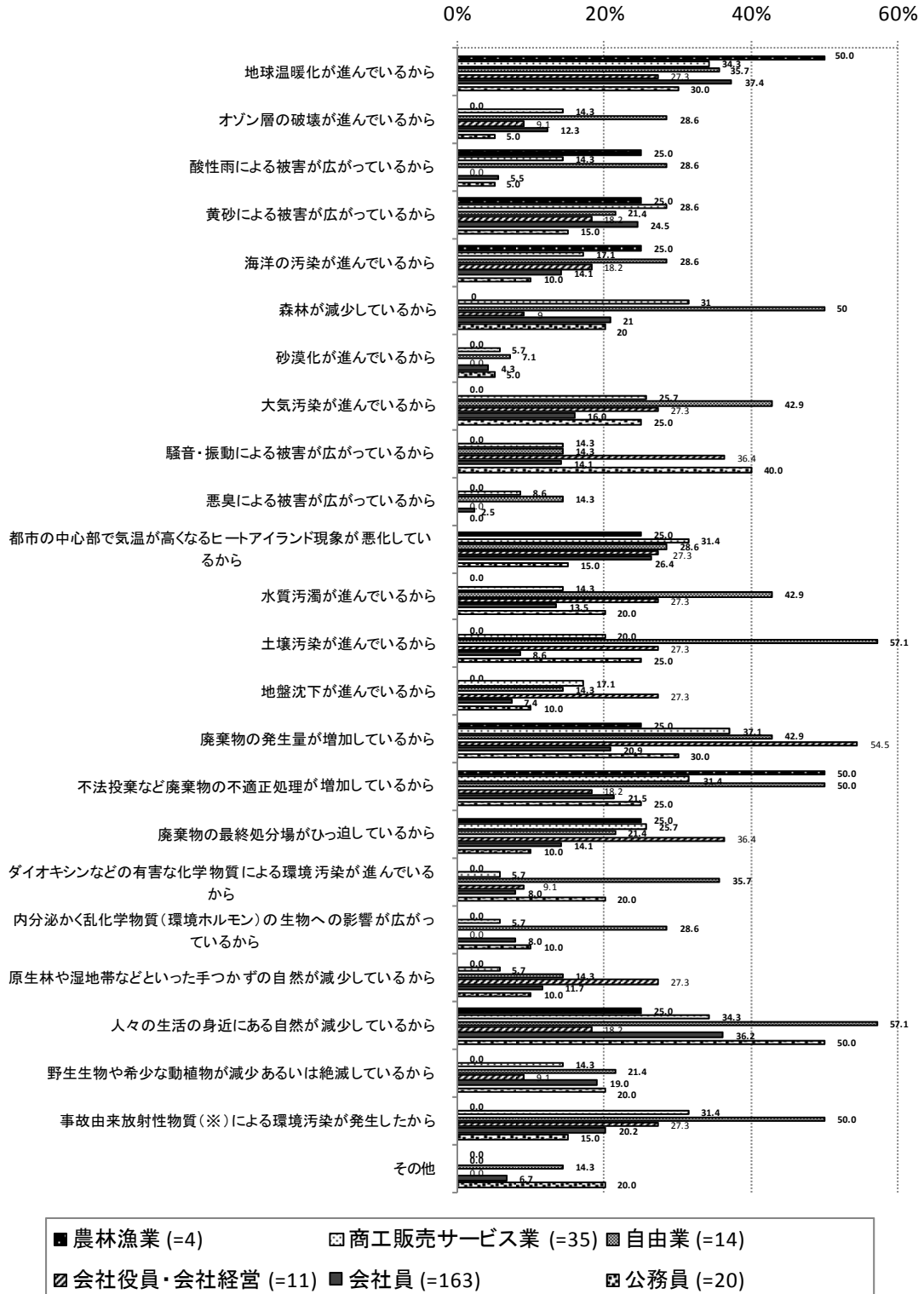
図表 1-27 地域レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



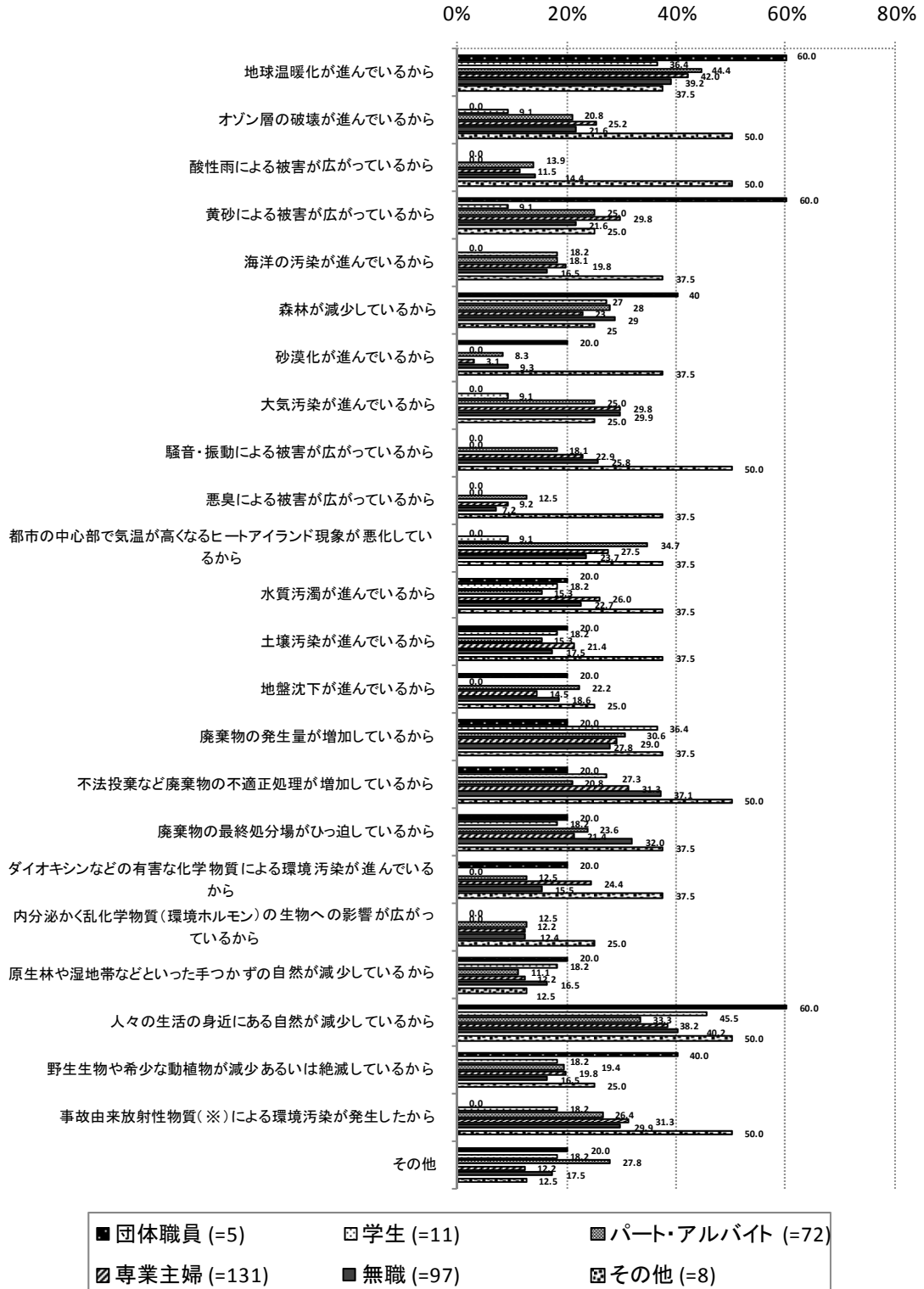
図表 1-28 地域レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）



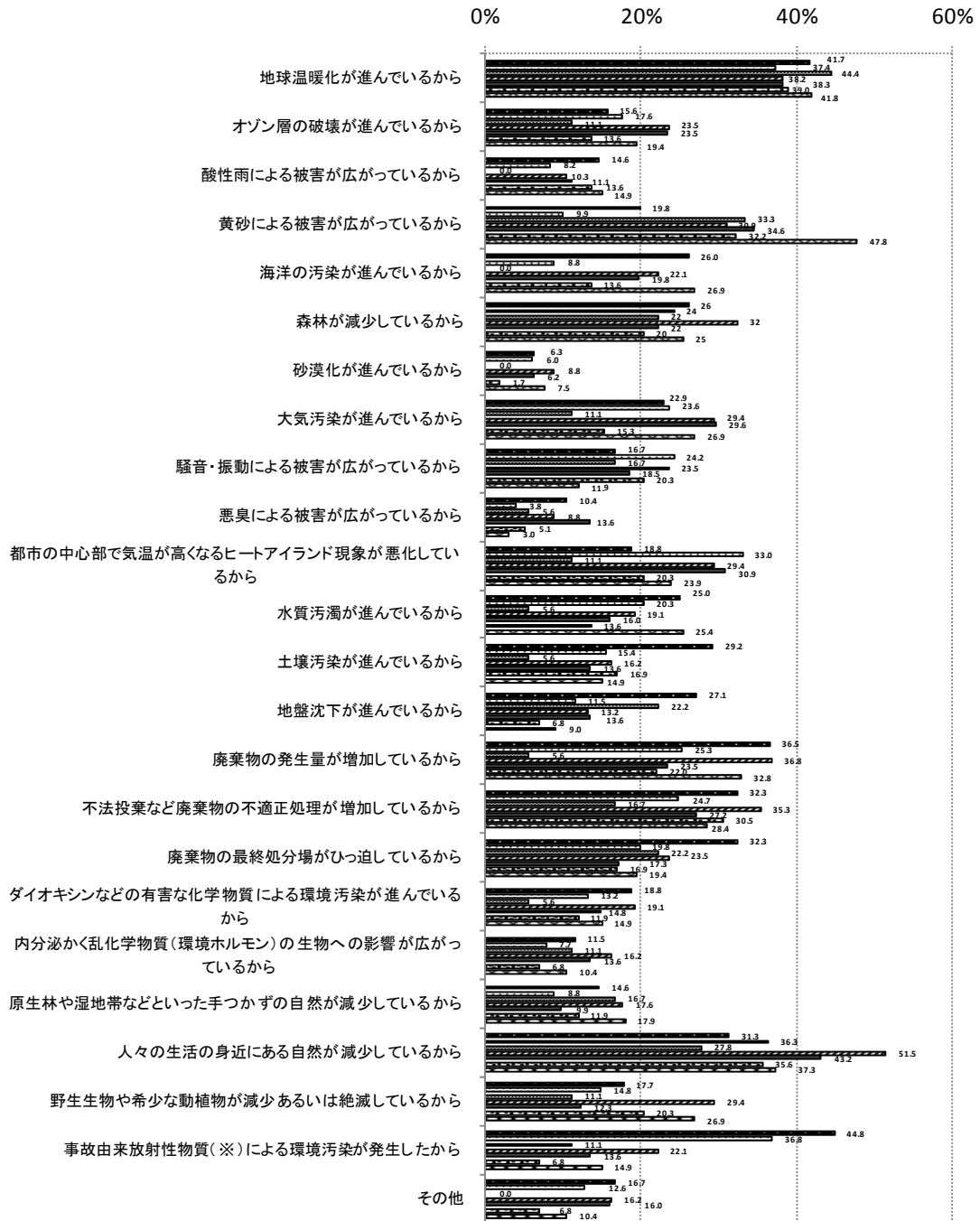
図表 1-29 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



図表 1-30 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）

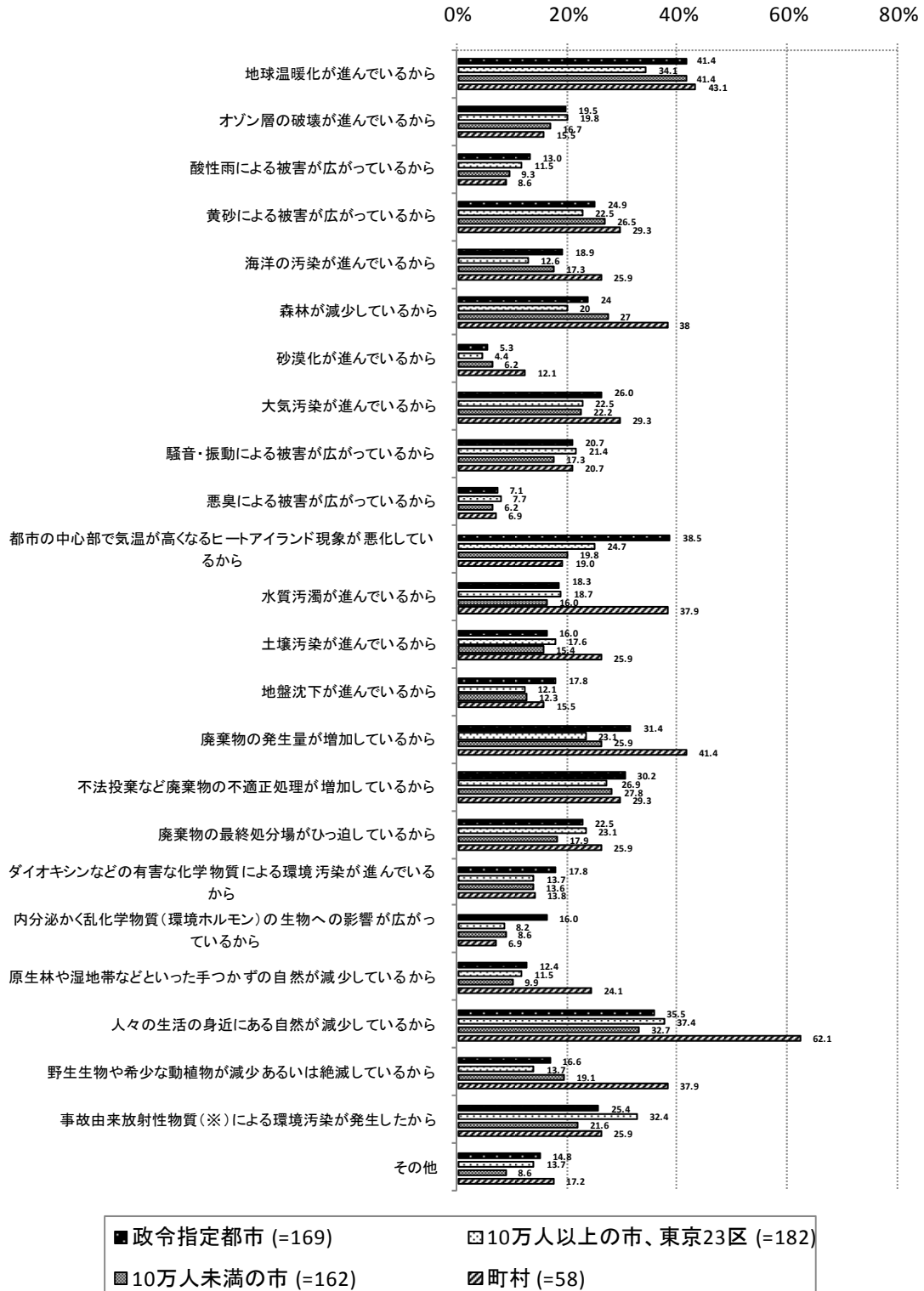


図表 1-31 地域レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北 (=96) □ 関東 (=182) ■ 北陸 (=18)
 ■ 中部 (=68) ■ 近畿 (=81) □ 中国・四国 (=59)
 □ 九州・沖縄 (=67)

図表 1-32 地域レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



国レベルの環境悪化を実感する理由

国レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「事故由来放射性物質による環境汚染が発生したから」が59%と最も割合が高く、次いで、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド減少が悪化しているから」(58%)、「地球温暖化が進んでいるから」(57%)となっている。

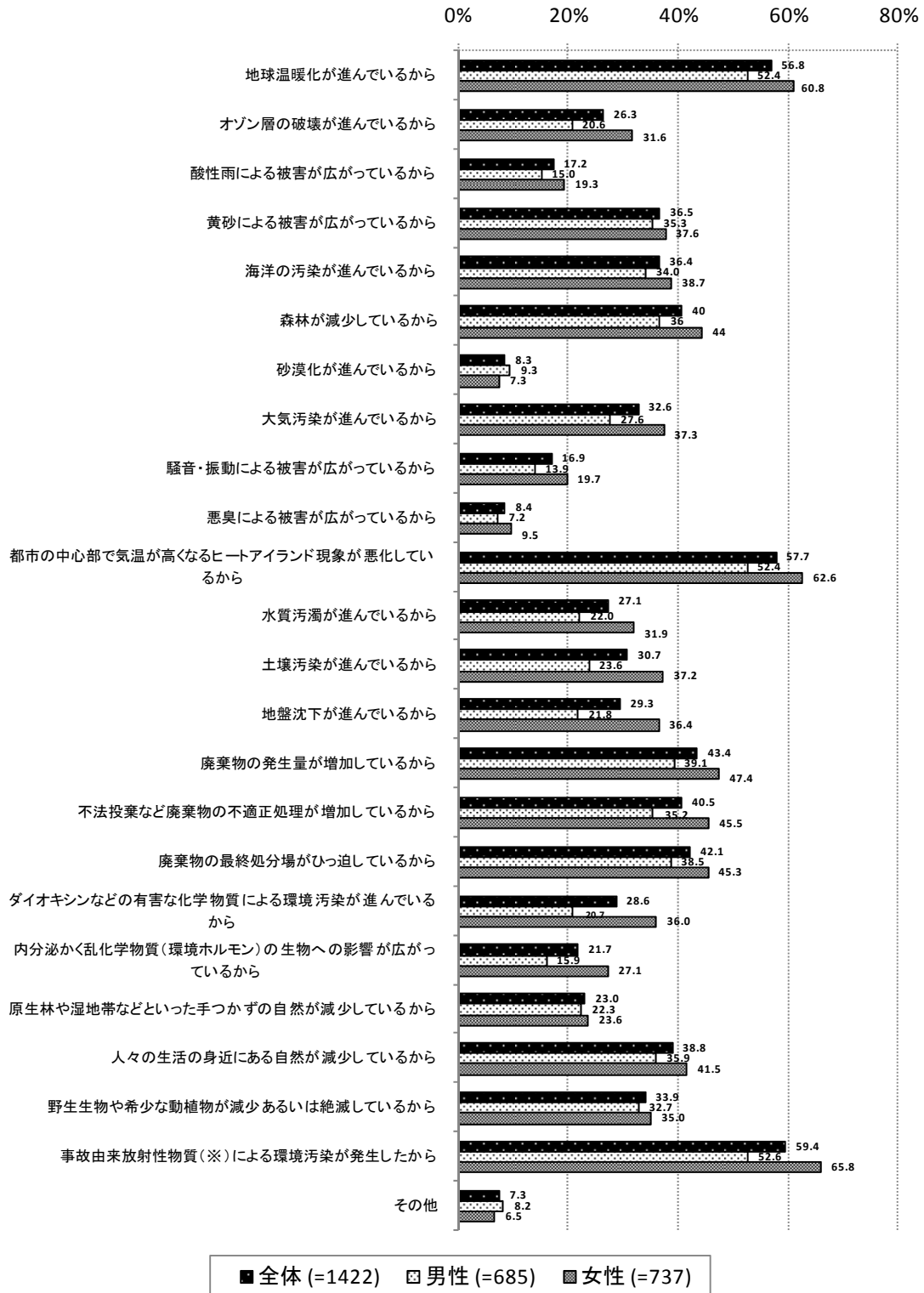
性別でみると、ほぼ全ての項目で女性が男性よりも高くなっており、特に「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染が進んでいるから」、「地盤沈下が進んでいるから」では女性が男性よりも15ポイント以上高くなっている。男性が女性よりも高い項目は「砂漠化が進んでいるから」となっている(男性：9%、女性：7%)。

年代別では、全ての項目で70代以上の割合が全体よりも高くなっている。「酸性雨による被害が広がっているから」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が悪化しているから」、「水質汚濁が進んでいるから」、「土壌汚染が進んでいるから」、「地盤沈下が進んでいるから」、「廃棄物の発生量が増加しているから」は年代があがるにつれて割合が高くなっている。

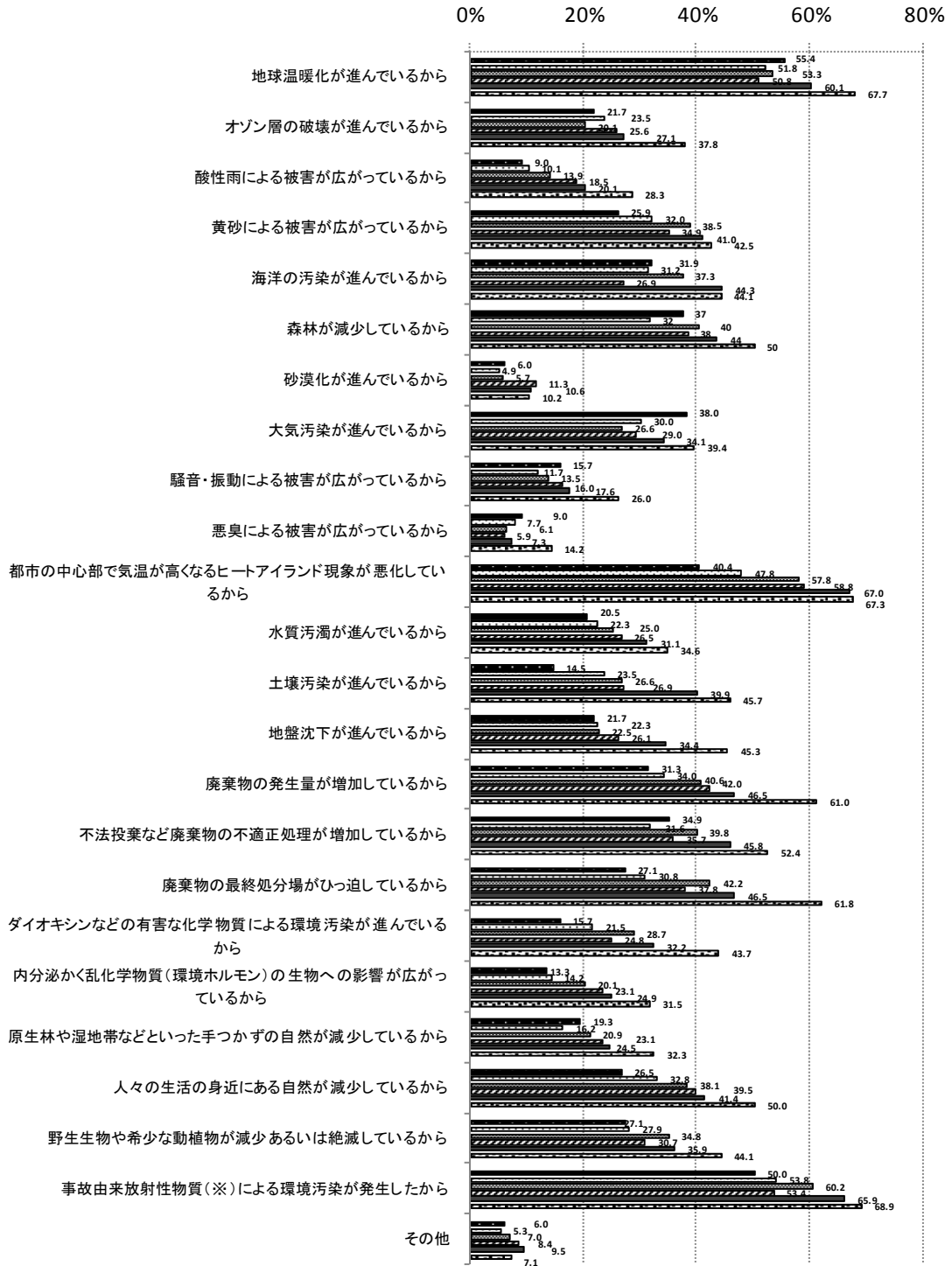
地域別でみると、九州・沖縄では「黄砂による被害が広がっているから」が48%と全体よりも10ポイント以上高くなっている。「地球温暖化が進んでいるから」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」は全ての地域で50%を超えている。「事故由来放射性物質による環境汚染が発生したから」は九州・沖縄と北陸を除く地域で最も高い割合の項目となっている。

都市規模別では、町村はほぼ全ての項目で、全体よりも高くなっている。「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」、「廃棄物の発生量が増加しているから」、「水質汚濁が進んでいるから」は全体よりも10ポイント以上高くなっている、町村では54%と全体よりも低くなっている。

図表 1-33 国レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）

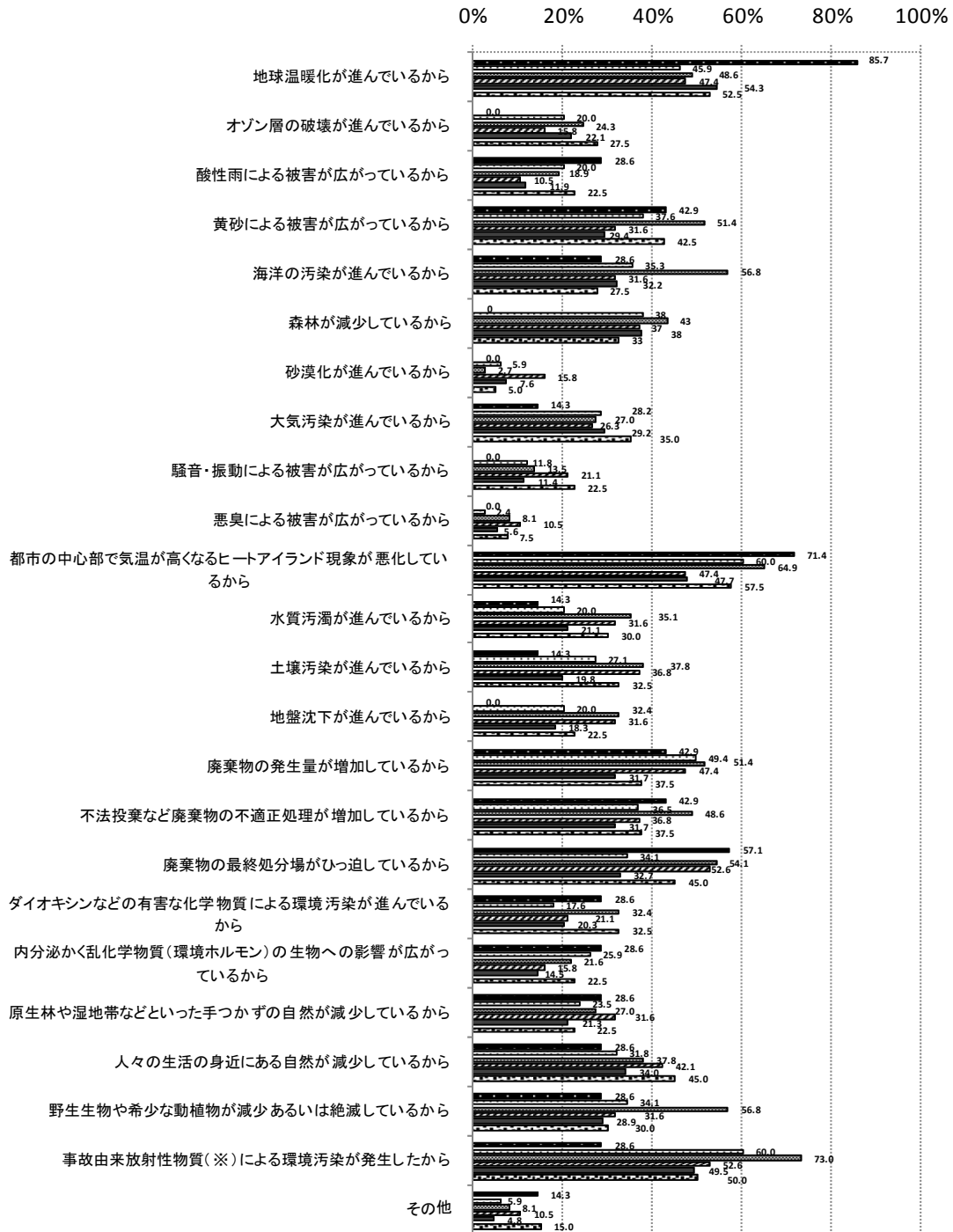


図表 1-34 国レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）



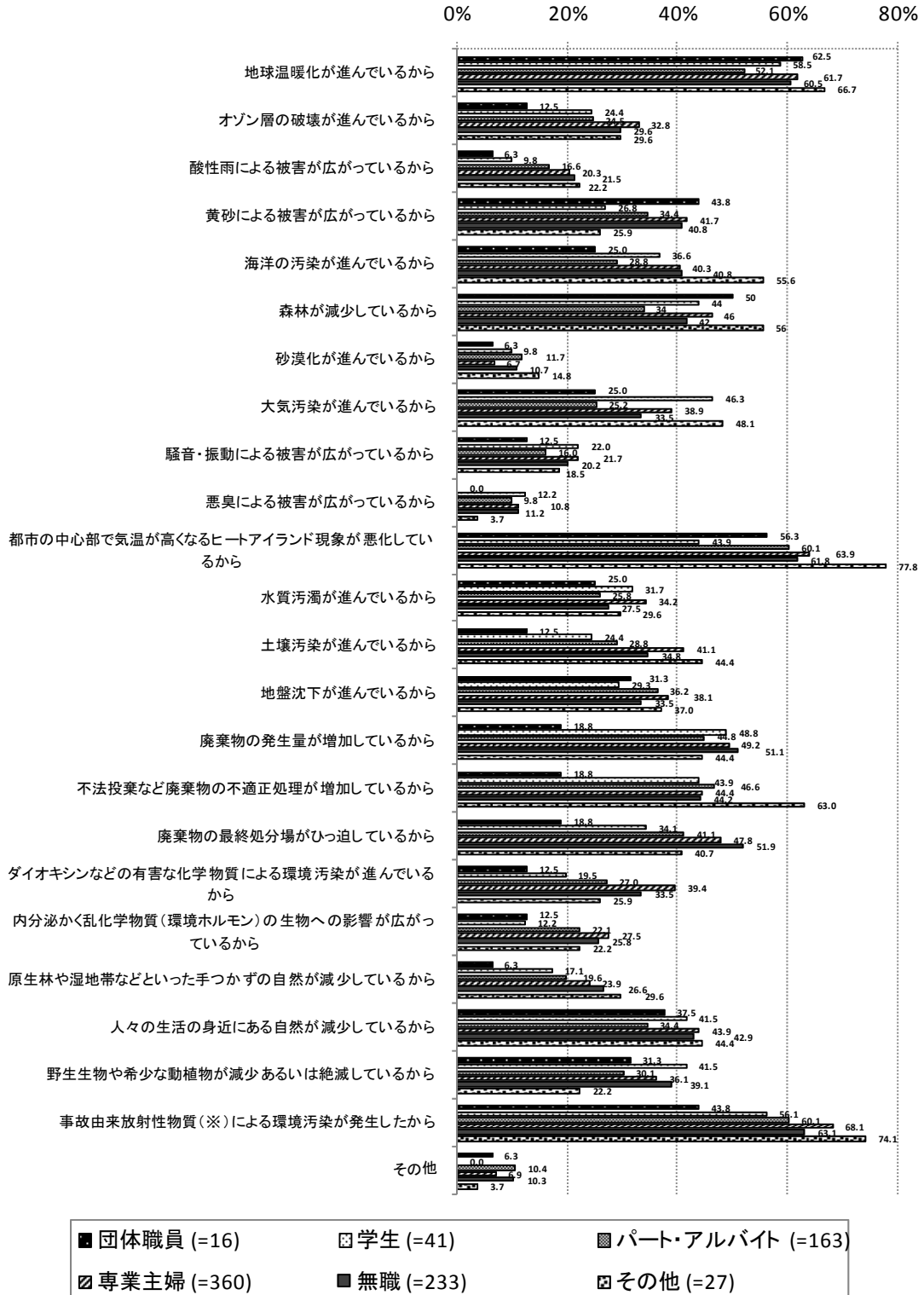
■ 20代 (=166) □ 30代 (=247) ▨ 40代 (=244) ▩ 50代 (=238) ▤ 60代 (=273) ▦ 70代以上 (=254)

図表 1-35 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）

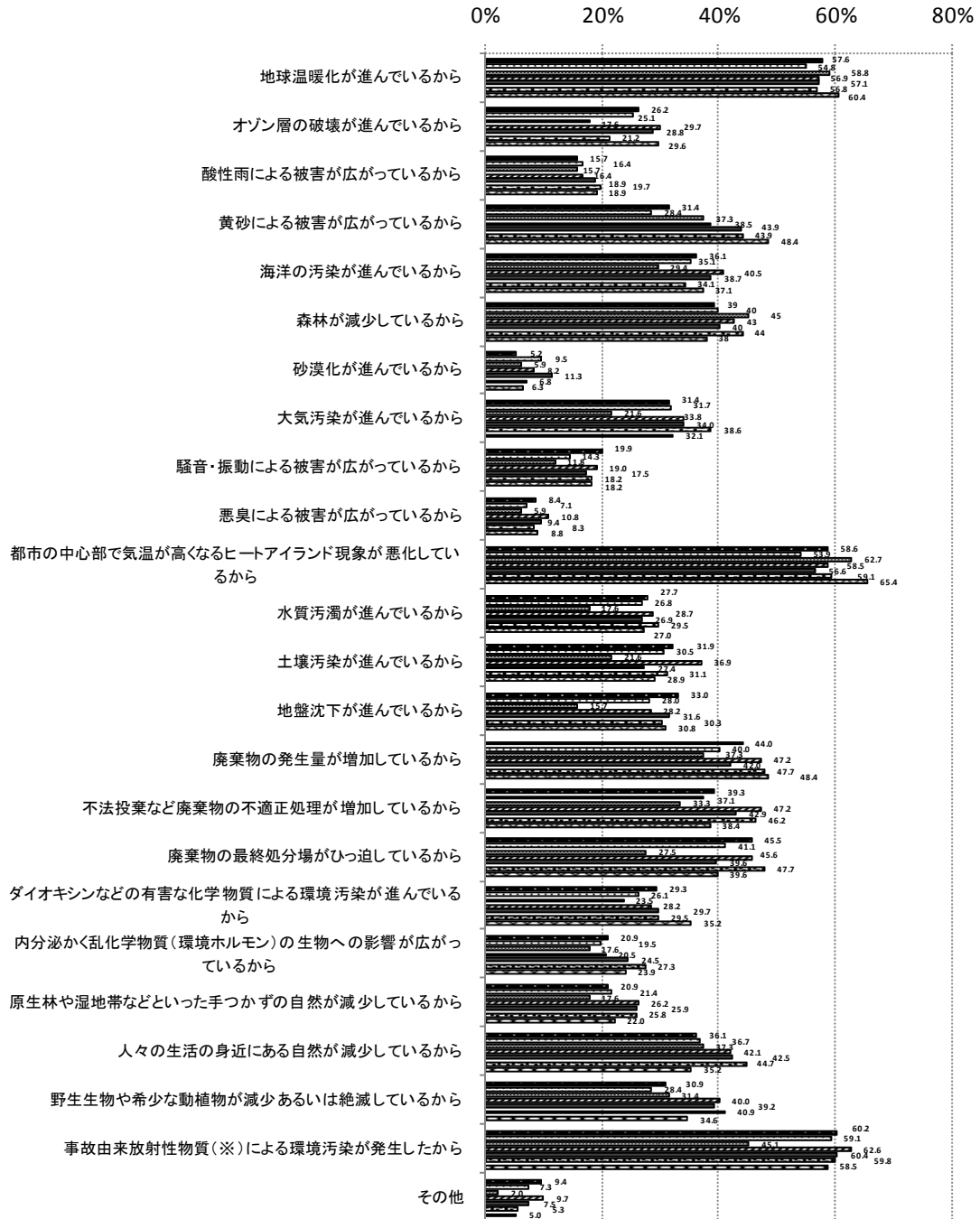


農林漁業 (=7)
 商工販売サービス業 (=85)
 自由業 (=37)
 会社役員・会社経営 (=19)
 会社員 (=394)
 公務員 (=40)

図表 1-36 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）

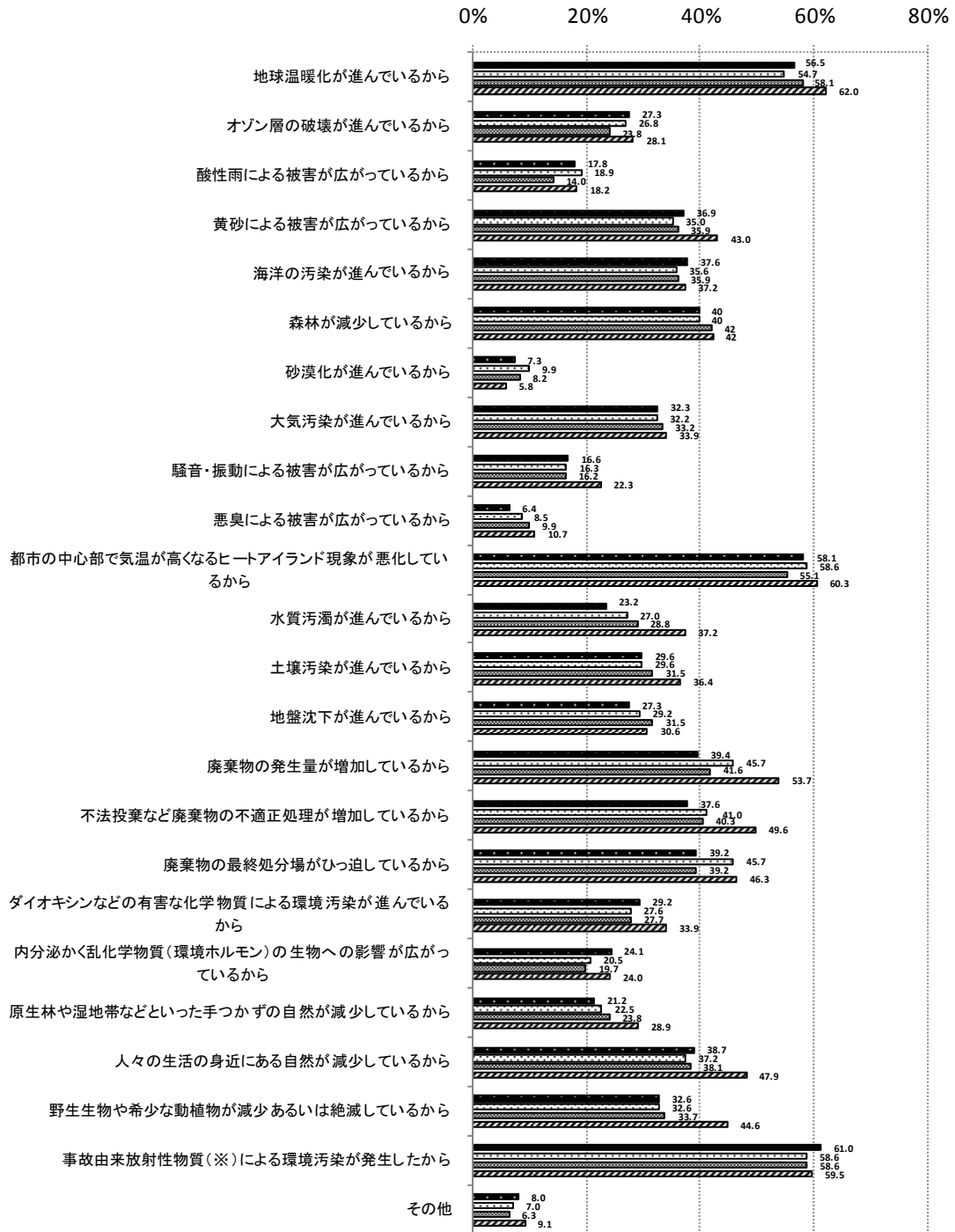


図表 1-37 国レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北 (=191) □ 関東 (=482) ■ 北陸 (=51)
 ▨ 中部 (=195) ■ 近畿 (=212) □ 中国・四国 (=132)
 □ 九州・沖縄 (=159)

図表 1-38 国レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



■ 政令指定都市 (=439) □ 10万人以上の市、東京23区 (=497)
 ▨ 10万人未満の市 (=365) ▩ 町村 (=121)

地球レベルの環境悪化を実感する理由

地球レベルの環境の状況についての実感について「悪化している」、「やや悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、地球レベルでは、「地球温暖化が進んでいるから」が 78%と最も割合が高く、次いで、「森林が減少しているから」(65%)、「大気汚染が進んでいるから」(64%)となっている。

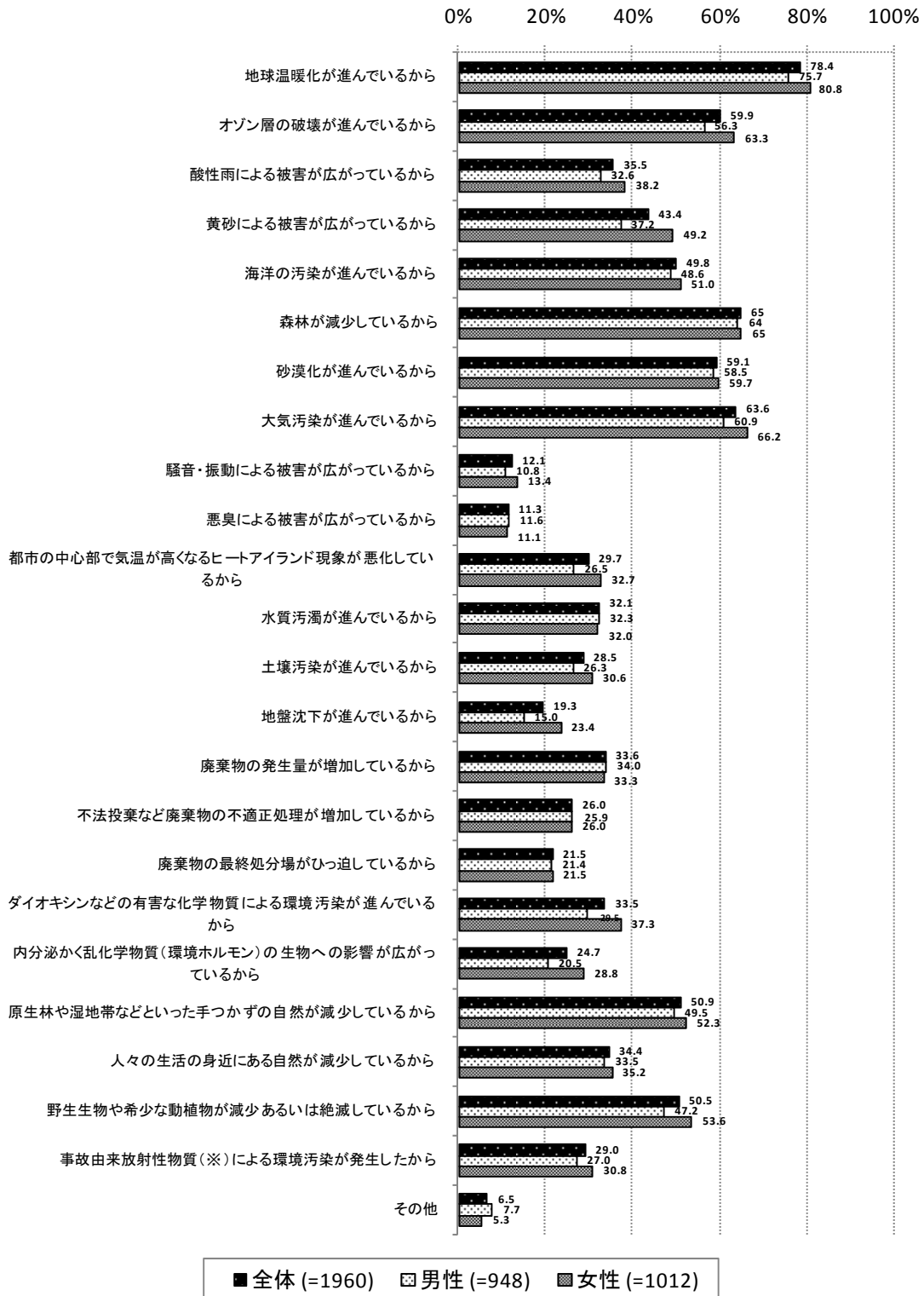
性別でみると、多くの項目で女性が男性よりも高くなっている。「黄砂による被害が広がっているから」の割合は、女性が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている(男性 37%、女性 49%)。

年代別では、全ての項目で 70 代以上の割合が全体よりも高くなっている。「酸性雨による被害が広がっているから」、「原生林や湿地帯などといった手つかずの自然が減少しているから」、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染が進んでいるから」、「砂漠化が進んでいるから」、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」、「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」は 10 ポイント以上全体よりも 70 代以上の割合が高くなっている。

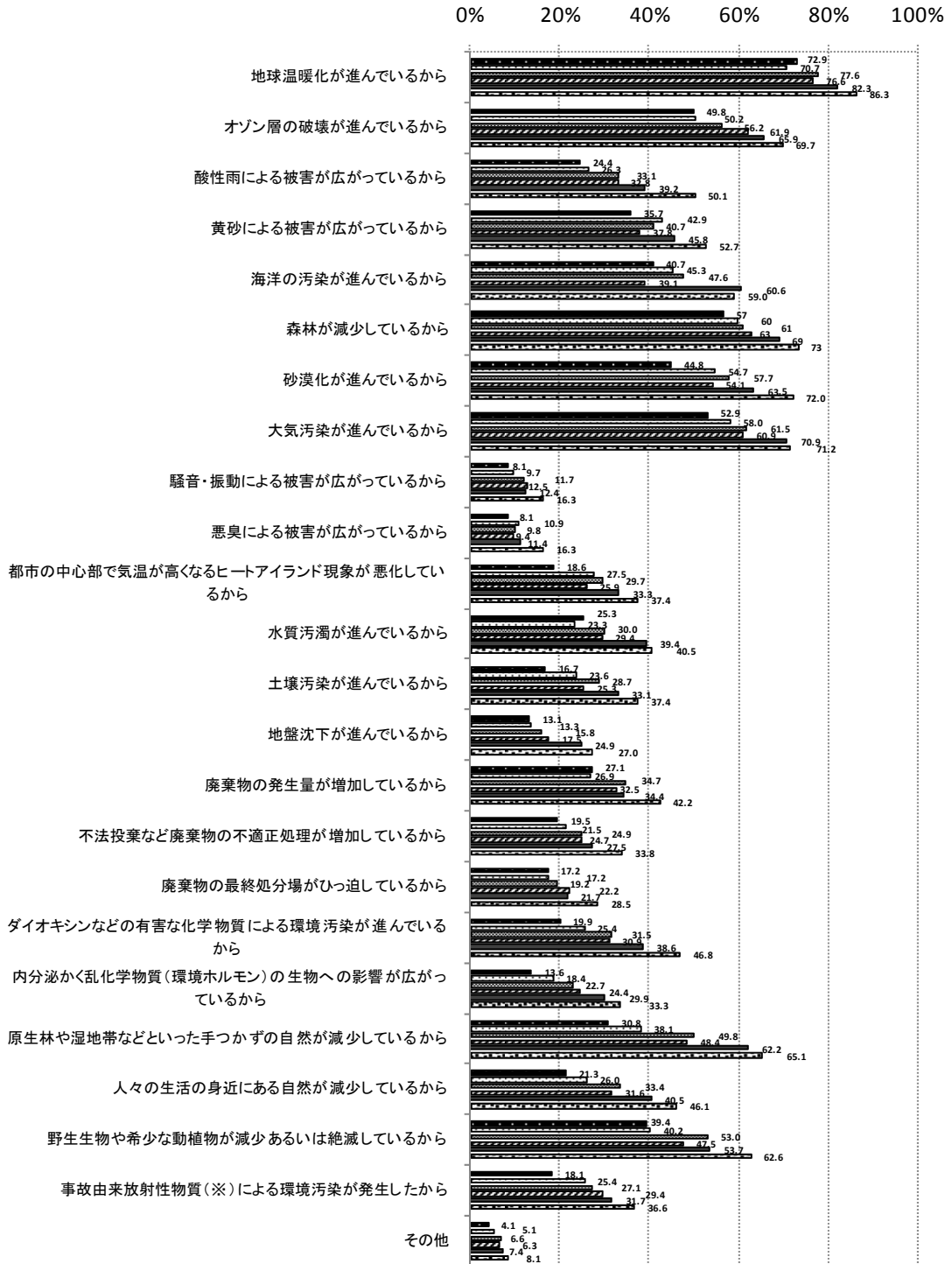
地域別でみると、全体から 10 ポイント程度の差のある項目は「水質汚濁が進んでいるから」のみで、地域別の大きな差はみられない。「水質汚濁が進んでいるから」は、最も割合の大きい中国・四国が 42%、最も割合の小さい北陸が 27%、全体では 32%となっている。

都市規模別では、大きな差はみられない。

図表 1-39 地球レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）

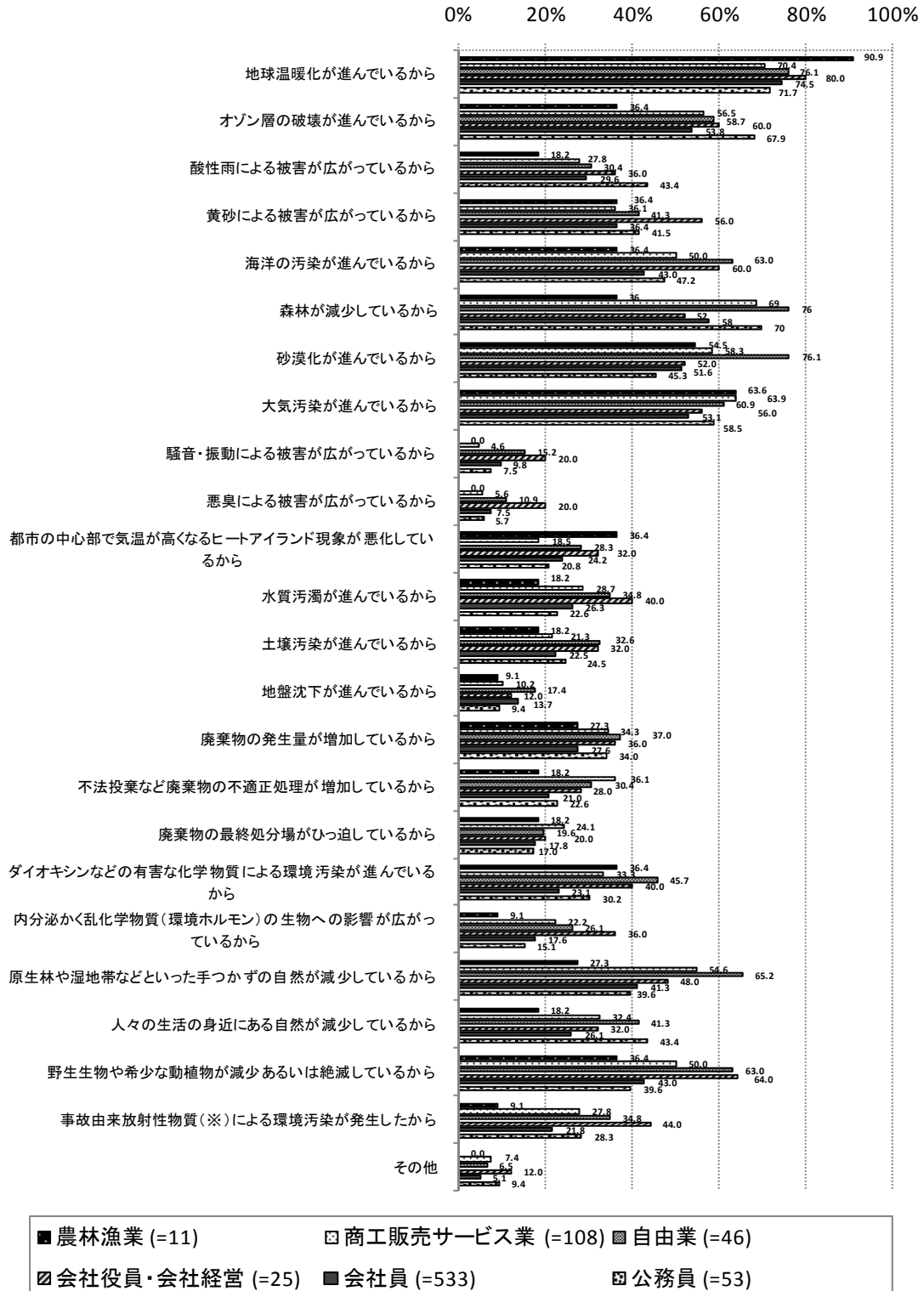


図表 1-40 地球レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）

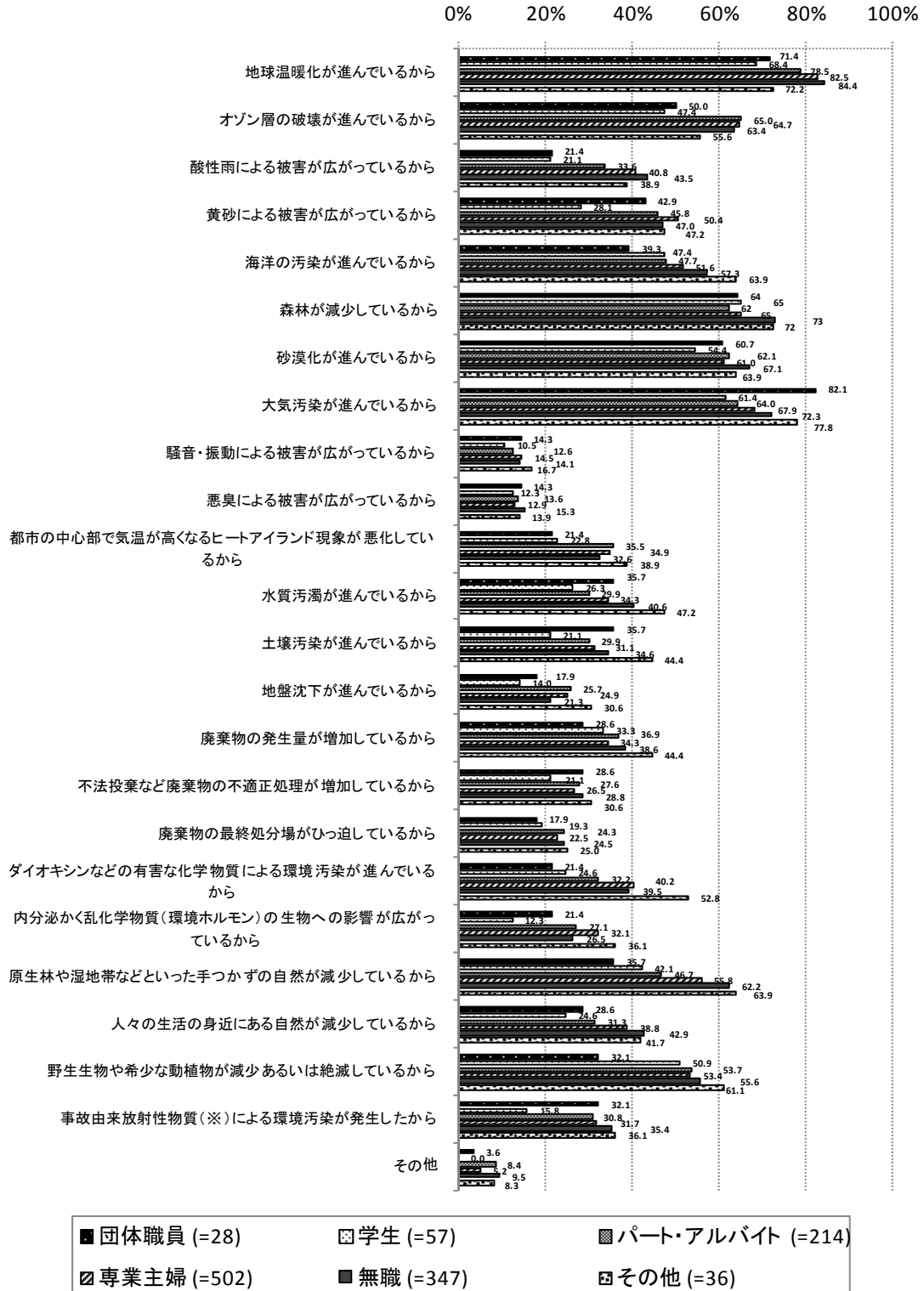


■ 20代 (=221) □ 30代 (=331) ▨ 40代 (=317) ▩ 50代 (=320) ■ 60代 (=378) ▨ 70代以上 (=393)

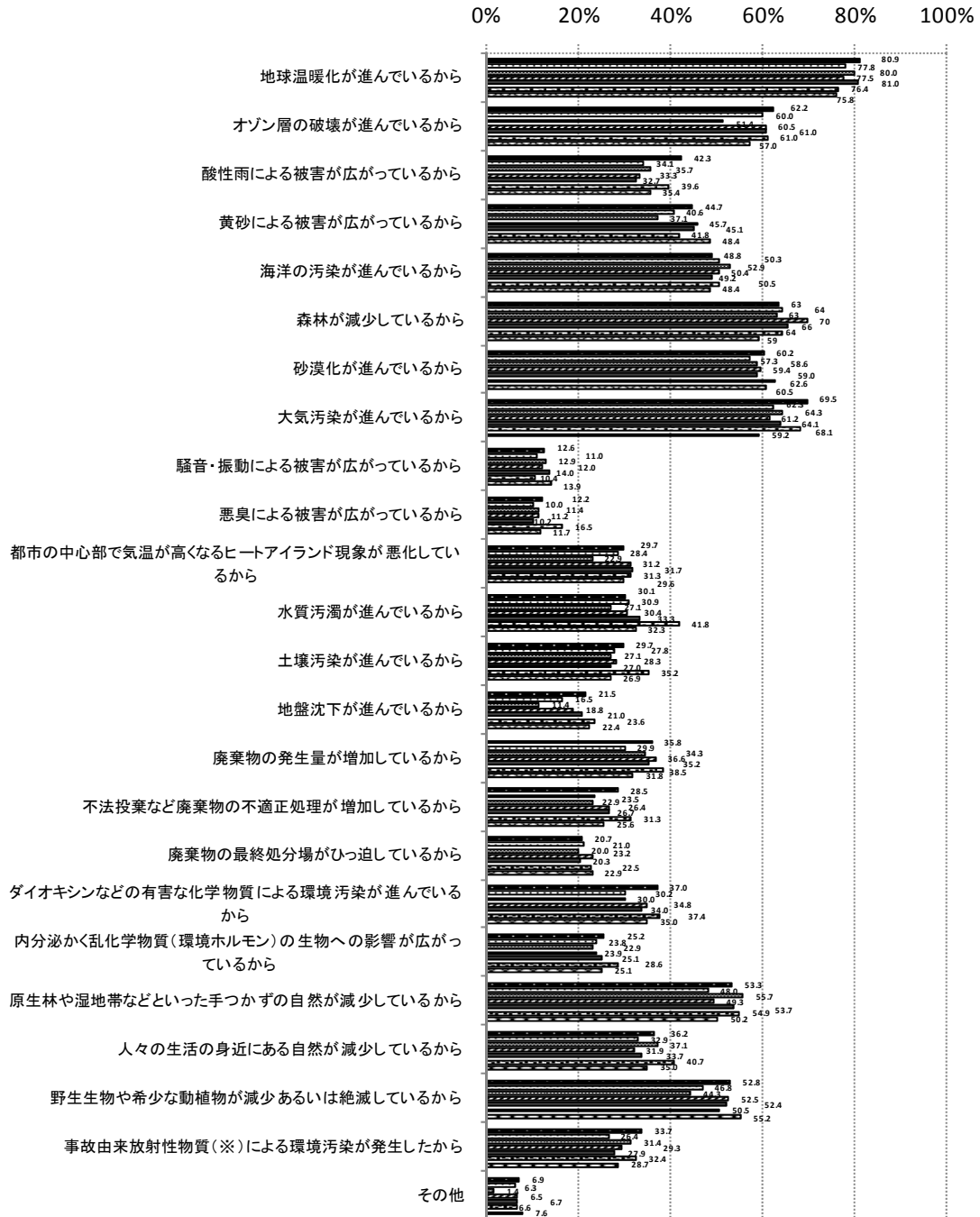
図表 1-41 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



図表 1-42 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）

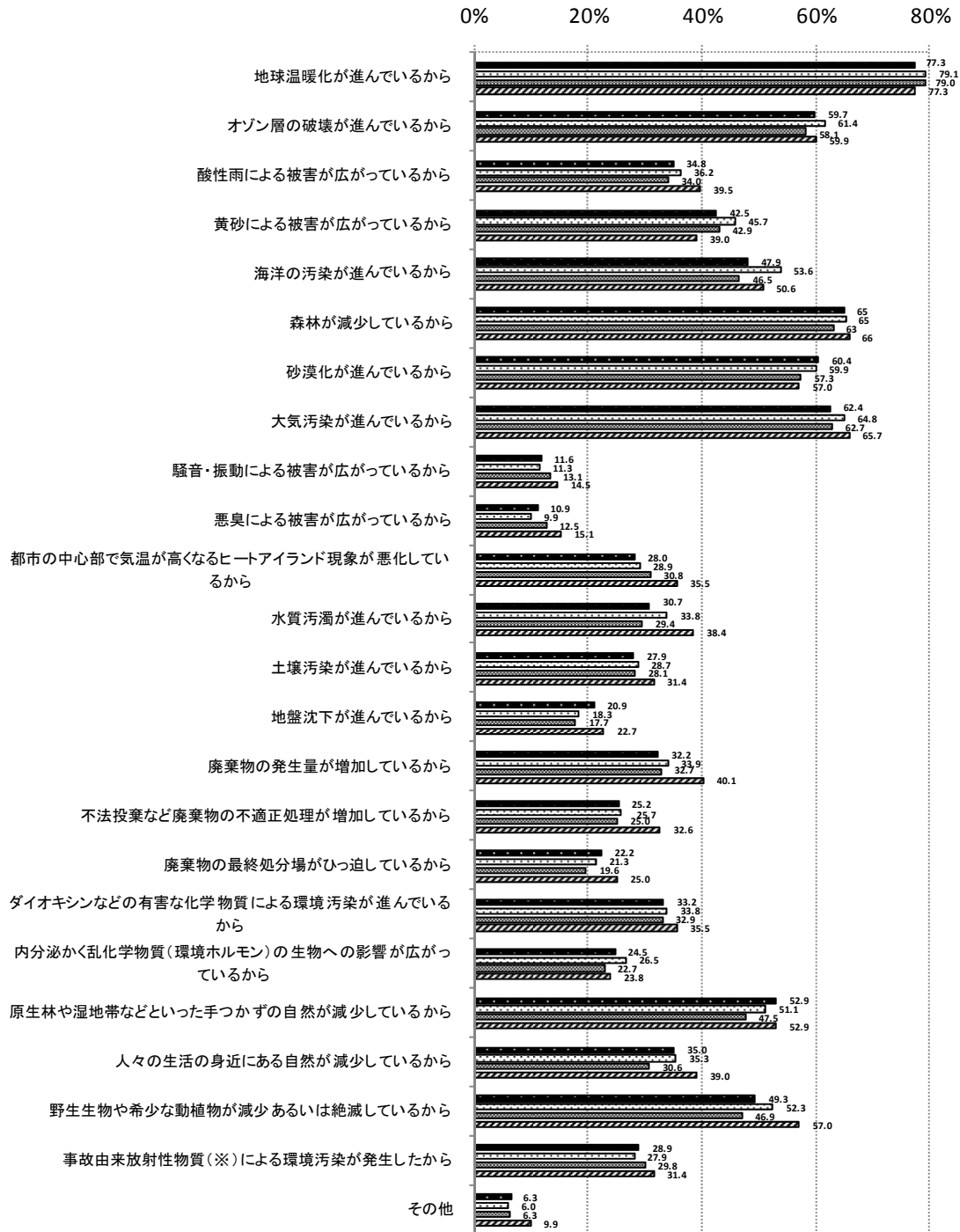


図表 1-43 地球レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北 (=246) □ 関東 (=648) ■ 北陸 (=70)
 ▨ 中部 (=276) ■ 近畿 (=315) □ 中国・四国 (=182)
 □ 九州・沖縄 (=223)

図表 1-44 地球レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



■ 政令指定都市 (=603) ▨ 10万人以上の市、東京23区 (=705)
 ▨ 10万人未満の市 (=480) ▩ 町村 (=172)

1-2 関心のある環境問題（問 1-4）

関心のある環境問題は「地球温暖化」と回答している人が 68%と最も高い割合を占める。次いで、「事故由来放射性物質による環境汚染」（40%）、「大気汚染」（39%）となっている。

関心のある環境問題については、「地球温暖化」（68%）が最も関心が高く、次いで、「事故由来放射性物質による環境汚染」（40%）、「大気汚染」（39%）、「森林の減少」（38%）となっている。一方、関心の低い項目は、「悪臭」（9%）、「騒音・振動」（14%）、「内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）の生物への影響」（16%）となっている。

平成 22 年度調査と比較すると、「大気汚染」、「土壌汚染」、「地盤沈下」、「廃棄物の最終処分場のひっ迫」、「悪臭」の 5 項目で関心度が上昇しているが、それ以外の項目は関心度が低くなっている。

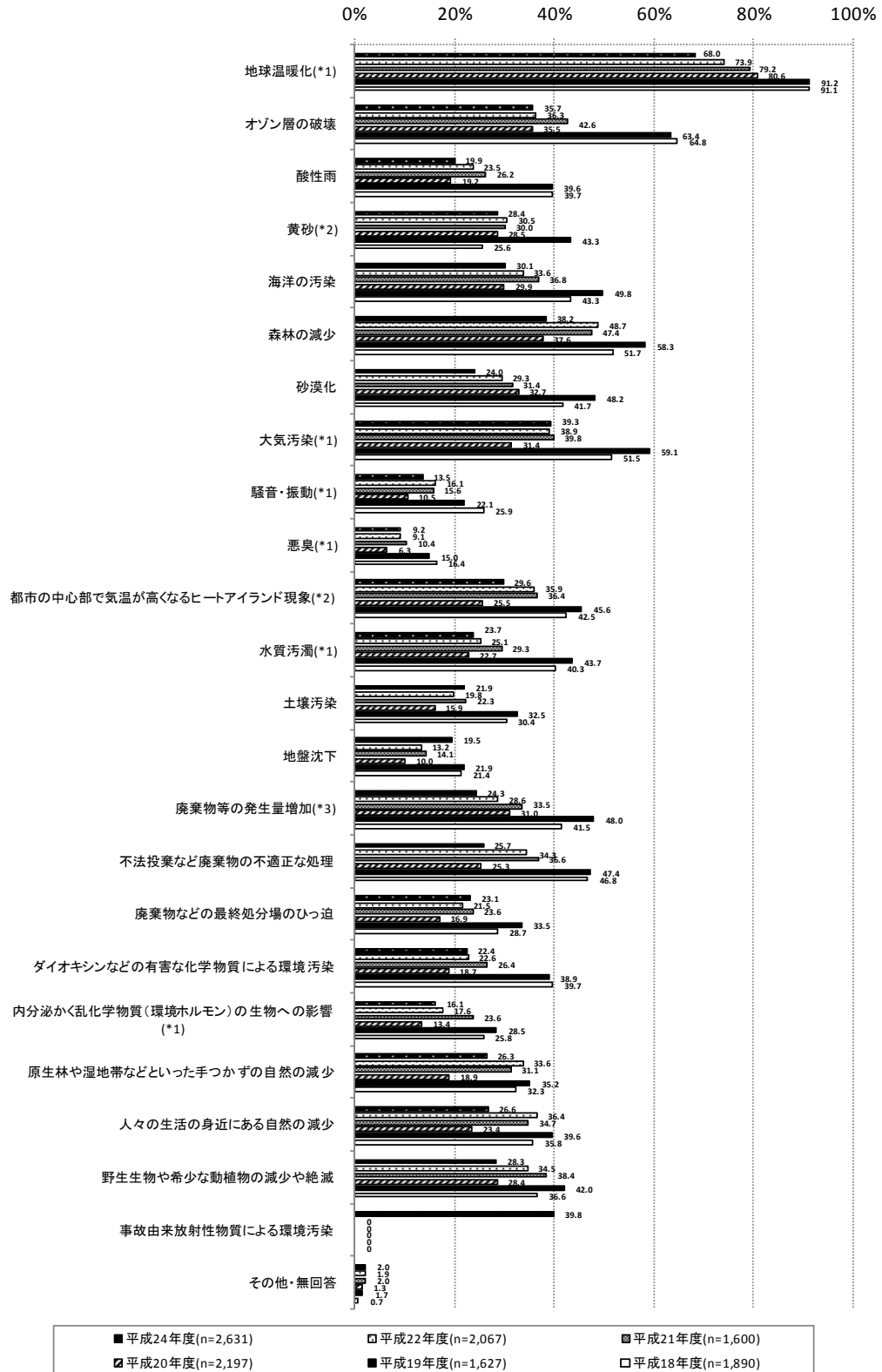
性別では、女性の方が男性よりも関心が高い項目が多くなっている。女性が男性よりも 10 ポイント以上高い項目とは「地盤沈下」となる（男性 14%、女性 25%）。

年代別では、60 代、70 代以上の方は多くの項目に対して関心が高い傾向がみられる。70 代以上の方は、全ての項目で全体よりも割合が高くなっており、「廃棄物の最終処分場のひっ迫」（40%）、「大気汚染」（55%）については、全体よりも 15 ポイント以上高くなっている。

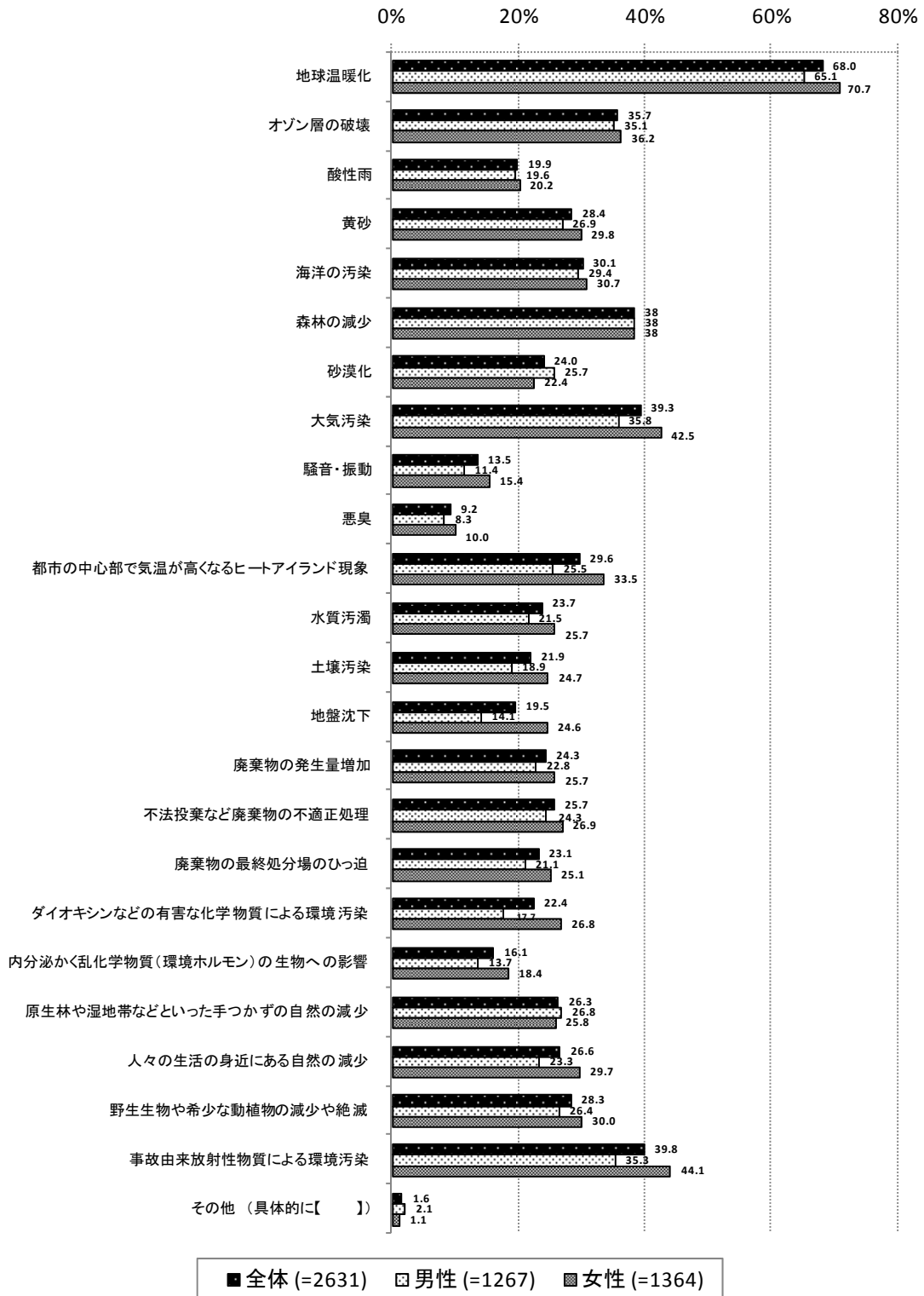
地域別でみると、全体から 10 ポイント以上差のある項目は、「事故由来放射性物質による環境汚染」および「黄砂」の 2 項目となる。「事故由来放射性物質による環境汚染」は北海道・東北が 51%と全体（40%）よりも 10 ポイント高く、「黄砂」は九州・沖縄が 42%と全体（28%）よりも 10 ポイント以上高くなっている。

都市規模別でみると、政令指定都市と「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」および「事故由来放射性物質による環境汚染」については、都市規模が大きいほど関心が高くなっており、政令指定都市は町村よりも 10 ポイント以上高くなっている。

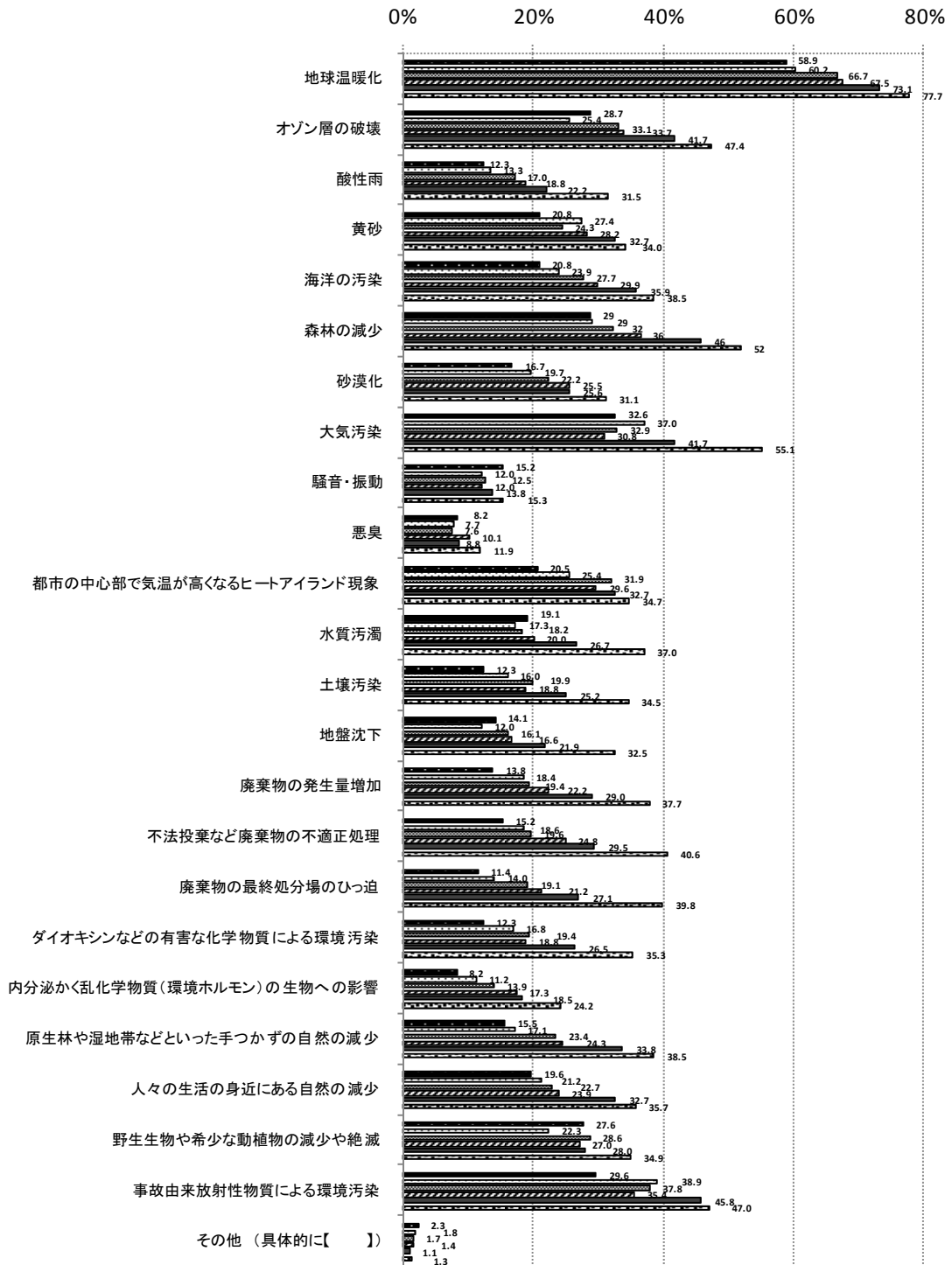
図表 1-45 関心のある環境問題（時系列）



図表 1-46 関心のある環境問題（全体、性別）

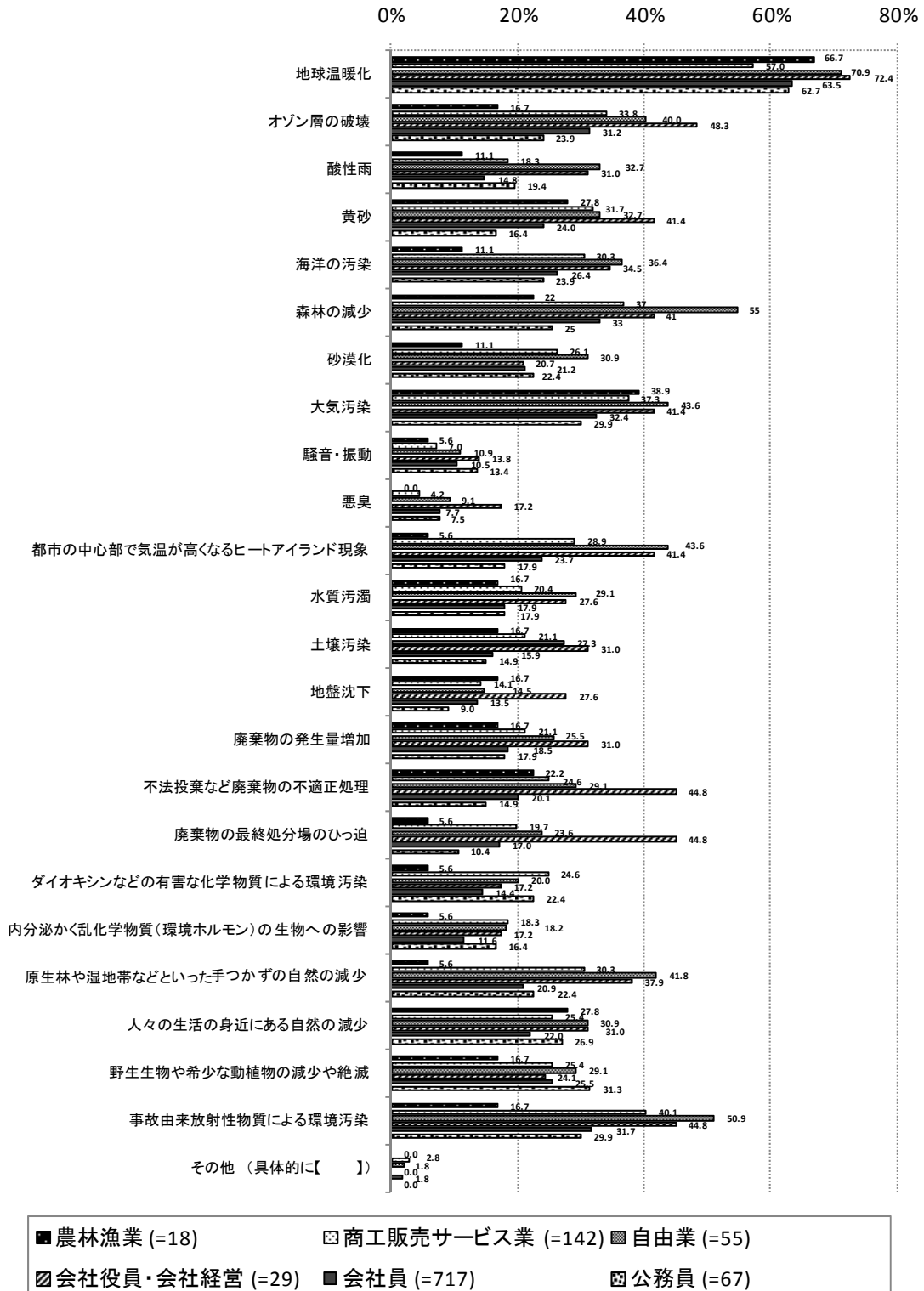


図表 1-47 関心のある環境問題（年代別）

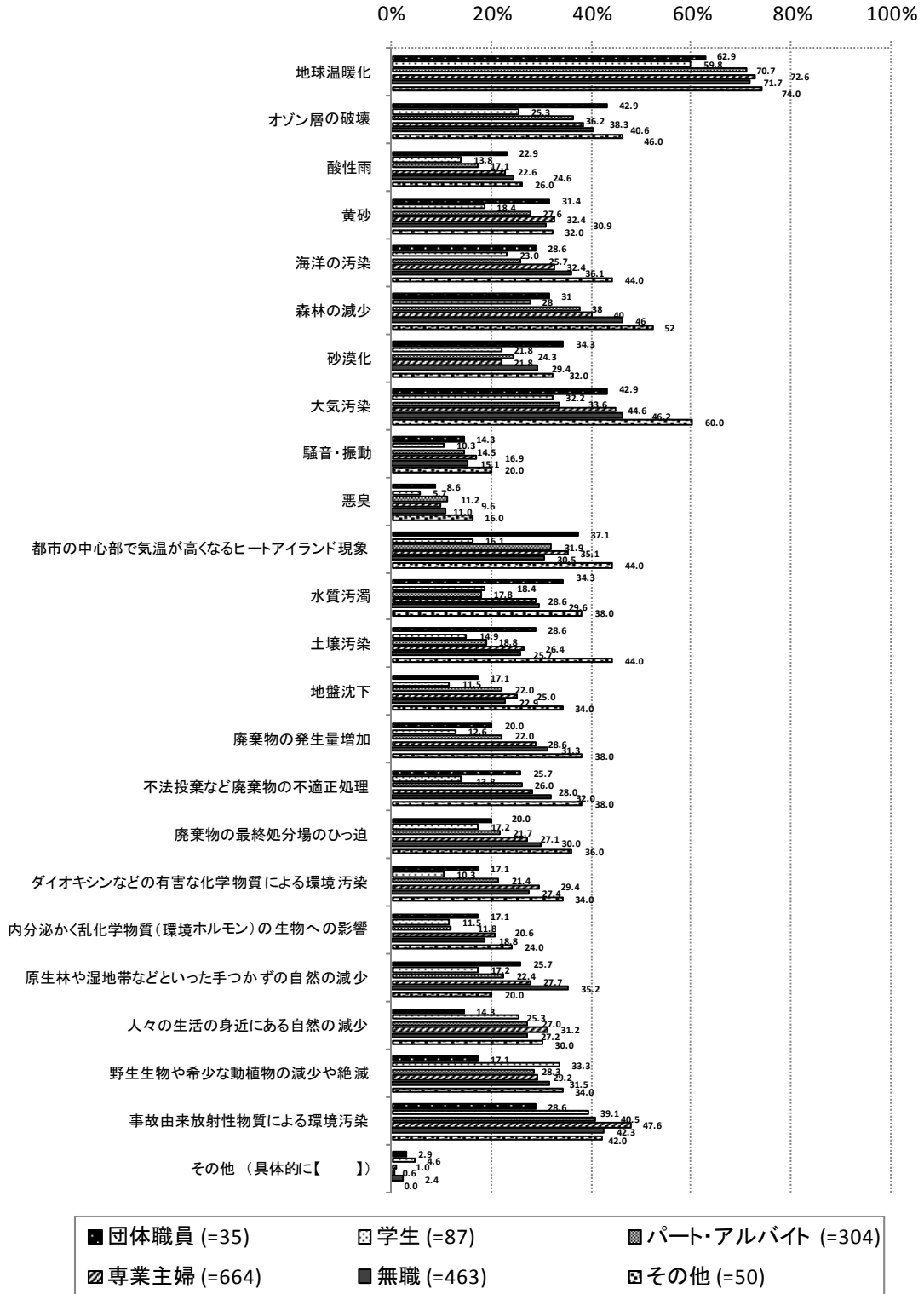


■ 20代 (=341) □ 30代 (=457) ▨ 40代 (=423) ▩ 50代 (=415) ■ 60代 (=465) ▨ 70代以上 (=530)

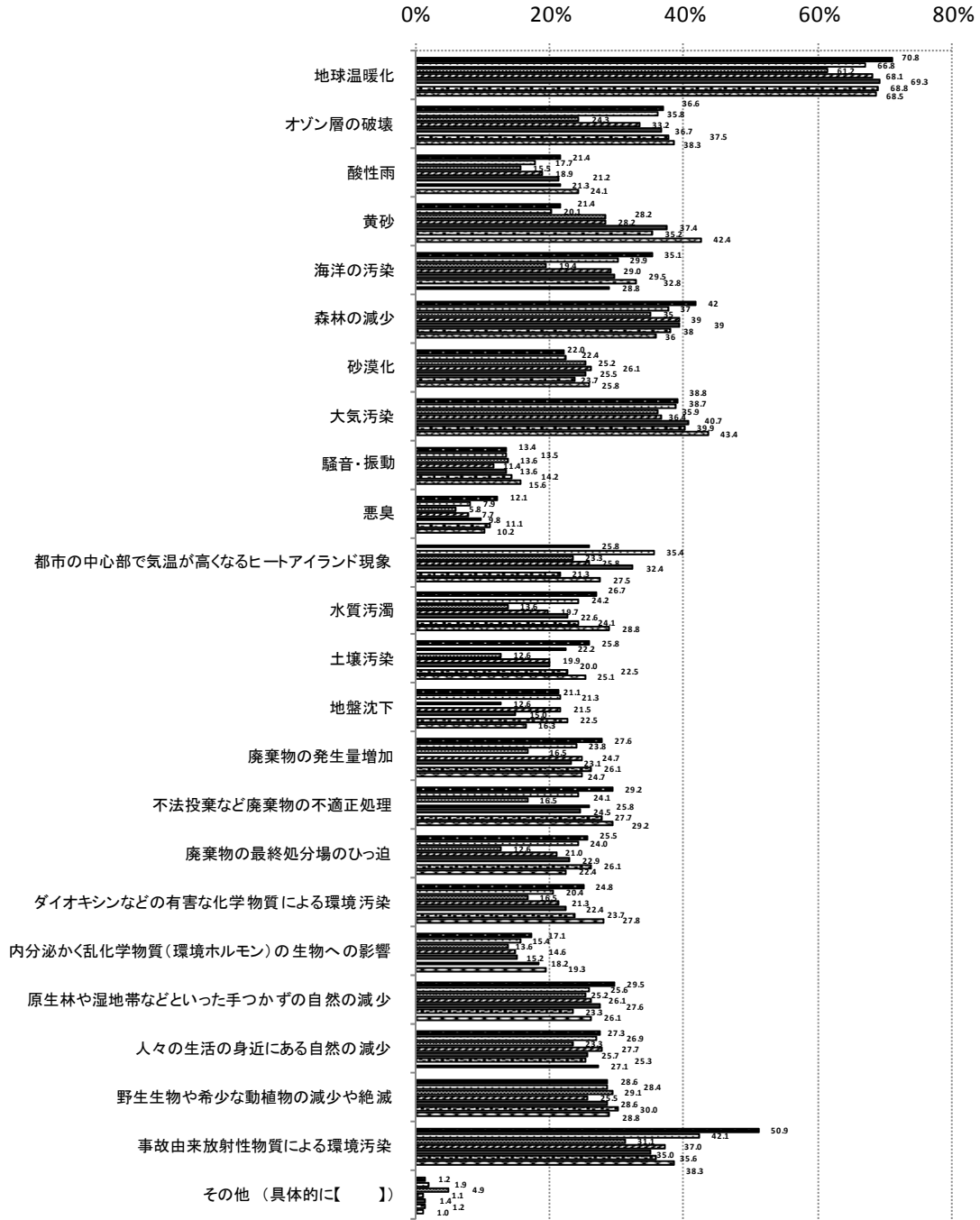
図表 1-48 関心のある環境問題（職業別 1/2）



図表 1-49 関心のある環境問題（職業別 2/2）

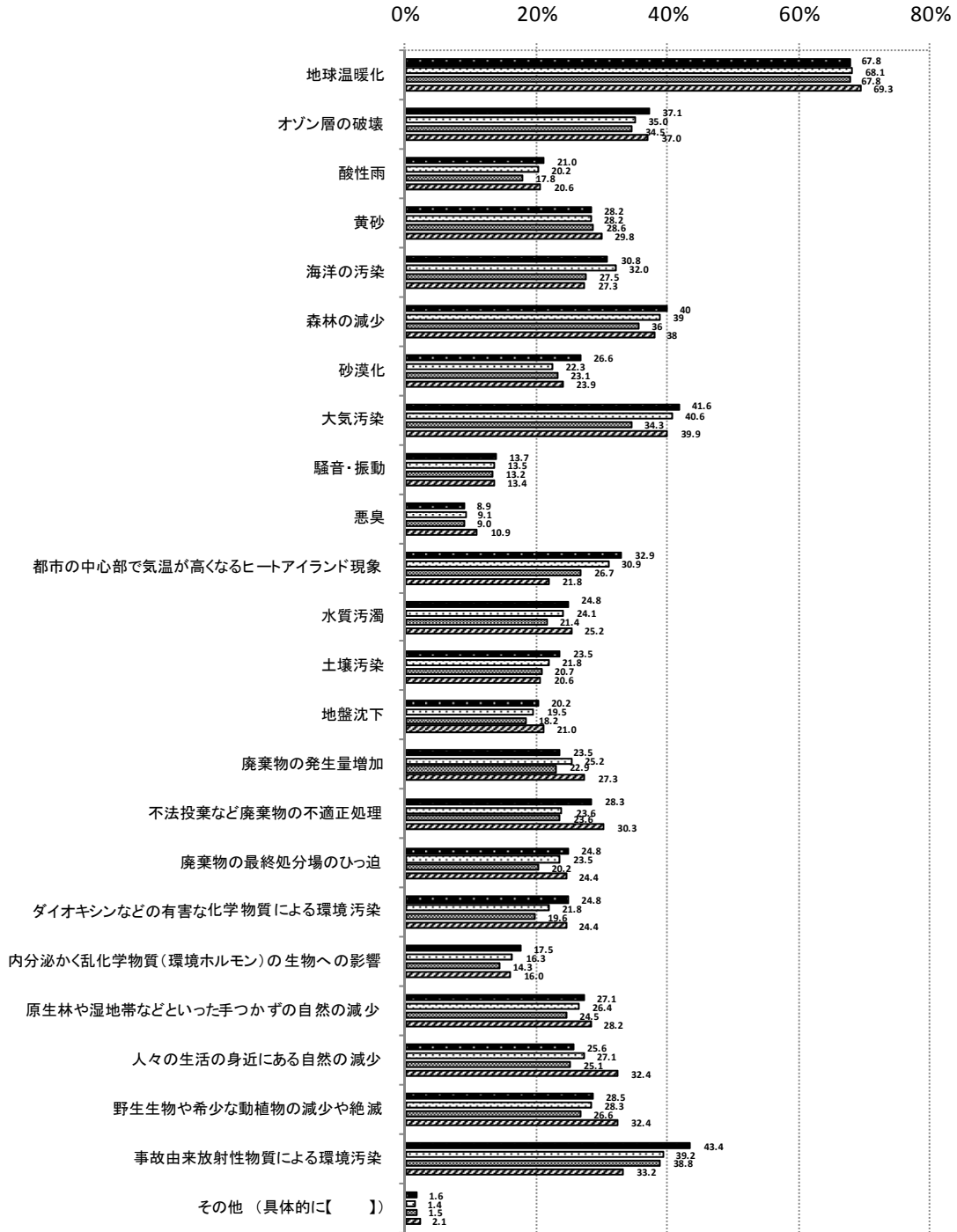


図表 1-50 関心のある環境問題（地域別）



■ 北海道・東北 (=322) □ 関東 (=862) ■ 北陸 (=103)
 ▨ 中部 (=376) ■ 近畿 (=420) ▩ 中国・四国 (=253)
 □ 九州・沖縄 (=295)

図表 1-51 関心のある環境問題（都市規模別）



■ 政令指定都市 (=808) □ 10万人以上の市、東京23区 (=927)
 ▨ 10万人未満の市 (=658) ▩ 町村 (=238)